

# 中近世移行期の兵法書にみる「国家」観

——防衛大学校所蔵『黄石公三略私抄』の翻刻と紹介——

福 島 金 治

キーワード：兵法書、三略、堯胤、豊臣秀吉

## はじめに

中世人は「国家」のありかたをどのように考えていたのだろうか。筆者は兵法書にその一端があらわれていると考え兵法書の採訪を行ってきた<sup>①</sup>。本稿は、中国古代の兵法書『三略』を注釈した『黄石公三略私抄』（防衛大学校所蔵）を翻刻し紹介するものである。日本伝来の『三略』については、阿部隆一氏が網羅的に書誌と内容の詳細な検討を行い、『三略』は『六韜』とともに室町期以降にもっとも読まれた兵法書で戦術などよりも治国用兵の術などを説いた点に特徴があり、菅原・清原家など博士家を中心に訓読・註釈などが行われたことなどを指摘した<sup>②</sup>。

まず書誌を記しておく。本書は有馬成甫氏が一九五七・八年に防衛大学校に寄贈した一六二九冊におよぶ「有馬文庫」中の一冊である（A-K083<sup>③</sup>）。装丁は袋綴、法量は縦24・6 cm・横16・7 cm、楮紙。表紙には外題等が「黄石公三略私／堯胤之／今ハ宥信之」とあり、内題は「黄石公三略上中下私」、文末に「黄石公三略上中下私畢」とあり、『三略』の抄物と知られる。本文には朱点・訓点・朱合点が付され、以下のような識語がある。

慶長第十玖載<sup>甲</sup> 眞弥生下旬、書之、堯胤廿八載、哀哉々々、爰  
獬翰不憚当用之間、類頭曠調乱而已、

本書は堯胤が慶長一九年（一六一四）、二八歳のときに著した書物で、堯胤は天正一五年（一五八七）ころの生まれとなる。表紙にみえる宥信は手沢者とみられるが、二人は密教僧と推察されるもの

の、その出自や事蹟について他に確認できる素材を見いだしてない<sup>4</sup>。堯胤は豊臣政権の全国統一期に育ち、大坂の役の直前に本書を筆録した。そのため本書には時代状況を反映した記述がみられる。以下、本文を紹介することとしたい。

### 一 『黄石公三略私抄』の作者とその性格

『三略』は戦略の機微を上中下の三略に分けて論じたもので、岡田脩氏は「上略は礼賞を設け、奸雄を別かち、成敗を著かにし、中略は徳行を差し、権変を審かにし、下略は道徳を陳べ、安危を察し、賢を賊うの咎めを明らかにする」目的で著述したもので、著者は中国の秦代の黄石公に仮託され、張良に授けた書とされてきた<sup>5</sup>。『三略』の本文は「夫主将之濃<sup>6</sup>」ではじまるが、『黄石公三略私抄』は次のような形式で叙述されていく。

『・』夫トハ発タンノ言ハ也、『』主ノ字ハ地水火風空ノ五大ヲツカサトル也、是ハ一筆ニ書ク文字也、主人ニハ五大能クト、ノウ人ヲスル也、此ノ主ノ字ヲハ司ルト読也、人ヲアマタツカサトルヲ主人ト云也、

『三略』の本文の一字、また熟語をまず取り出し注釈を施している。そして、「主」を地水火空風の五大から説明しているように密教をベースにした理解となっている<sup>6</sup>。これに対し、本書とほぼ同時

期の『三略捷抄』（京都大学所蔵<sup>7</sup>）では、以下のような理解となっている。

夫主将之法 夫トハ発端ノ字ゾ。主トハ君也。将ハ將軍ゾ。主君タル人、將軍タル人ノ法度トハト言心ゾ。

「・トハ」と『三略』の本文を示して注釈を加え、末尾は「ゾ」と口語表現で縮めている。ここでは「将は將軍である」と記すようにオーソドックスな理解である。こうしたスタイルは一貫し、『三略』の有名な文言「柔能制剛」の場合、『三略捷抄』は本文を引用した後に「ヤワラカニヨハキ者ハ、コワキツヨキ者ニカツゾ」と注釈し、『黄石公三略私抄』は「柔ハ能ク剛ヲ制ストハ、柔ハニウワノ道理也」と訓読し注釈している。ただし、『黄石公三略私抄』の叙述を『三略捷抄』に準拠してみると、「柔能制剛」（28）の後に「敵睦携之」（67）から「下々者務耕業」（80）までが入り、その後「信賢如腹心」（31）にもどっている。また「此間一丁ヲツル」の表現もある。右の事情は、本書が草稿状態の本だった可能性と、堯胤の本文を校訂した人物（宥信カ）がいたことを示しているよう。一方、本書は『三略』の本文を訓読して引用しているために、本文の原型がわかりにくい場合もある。校訂の痕跡を『黄石公三略私抄』の本文をかかげ、『三略捷抄』に引用された『三略』の本文を「6 治国安家得人也」と鈴木博氏が同書の注釈に付された番号を

示して述べていこう。「凡将」は「乱将」(115)を「成権」(成権ヒトケヒコ)、「マタエテツイニウツタラス」は「威権」(327)を「成権」とも理解していたようだ。これらはテキストの質や著者の理解と関係しているようで、校訂を施した痕跡が「不肖ノイタス時、其路チノトヲシ」(386)などといった傍注にうかがえる。<sup>(8)</sup>

そこで、『黄石公三略私抄』と『三略捷抄』の依拠した『三略』の本文の違いを示せば以下のようになる。

- ① 「物ト押移ル」の「押」は、「推」である(14)。
- ② 「動時ハ輒随」は、「時」は本文になく「而」である(16)。
- ③ 「九夷ヲ密定」の「密」は「三略捷抄」と同じだが、『三略』の底本の文字は「蜜」である(18)。
- ④ 「変スル者」の「変」は、「反」である(47)。
- ⑤ 「礼ヲ貴」の「貴」は、「崇」である(89)。
- ⑥ 「謀コト不奪」の「謀」は、「計」である(178)。
- ⑦ 「政ヲ取ル国」の「政」は、「攻」である(200)。
- ⑧ 「是ヲ国ノ奸」の「奸」は、「姦」である(237)。
- ⑨ 「杳然」の「杳」は、「苟」である(249)。
- ⑩ 「举措代レ功ニ」の「代」は、「伐」である(251)。ただし、「伐」は誤りで底本は「代」である。この部分は『黄石公三略

私抄』は『三略』の底本と同じだった。

- ⑪ 「岩穴ノ土」の「岩」は、「巖」である(263)。
- ⑫ 「弁等」の「等」は、「士」である(291)。
- ⑬ 「賢人ハ地ニノツトル」の「人」は、「者」である(312)。
- ⑭ 「過制ヲ造作スル則ハナルトイエトモナラスヤブル」の「造」は、「告」である(362)。

⑮ 「大臣衆ヲ疑」の「衆」は、「主」である(428)。

右の文字の異同からみて、『黄石公三略私抄』は清原家などが依拠した『三略』の本文とは幾分異なる本だったとみてよからう。また、⑫で「士」を「等」とした部分は誤読と推察され、依拠した『三略』が写本、または抄物だった可能性があらう。

さらに、『三略』の底本とは異なる意図的な改変とみられる部分がある。⑦「政ヲ取ル国トハ、縦ハ其国ヲ案堵シテ、其国ヲ能ヲサメント思ハ、民百姓ニ能ク情ヲカケル政コトハ法度ナリ」の部分は、「政」を「攻」に改変して理解していることが明らかで、その注釈は君たるものは国内で国人らに給地を安堵して、よく統治しようと思えば、民百姓に情けをかけることが大事であると述べている。これに対し、『三略捷抄』は「他国ヲキリトラントヲモフ国ハ、先ヅ民百姓ヲヨクヤシナヘゾ。又説ニ、他国ヲセメトリタラバ、ソノ他国ノ民ヲヨクヤシナヘト云心ゾ」トある(200)。他国を攻め取る

とする国は、まず民百姓をよく養うものであり、他国を攻め取るというのは他国の民をよく養うことだ、と解釈しているのだから「攻」は「キリトル」という意味だった。『三略私抄』は「攻」を「政」と改変して理解し、前提の切り取るが統治の方向へ一段とすすんだ解釈となっている。

この点は⑮「大臣衆ヲ疑トハ、主人士卒ニ疑心アレハワキヨリカタマシキ人アツマル」とも通じる。「主」を「衆」に改変し、主人がその臣下に疑いをもてば脇からよこしまな人々が現れると解釈している。これに対し、『三略捷抄』は「大ナ臣下ガ主君ヲウタガエバ、色々ノ悪人ガアツマルモノゾ」と注釈し(428)、重臣が主人に疑心を抱けば、よこしまな人間が集まってくると『三略』の本文を忠実に解釈していた。本来、君主と重臣の関係が本旨だったのに、重臣が民百姓を疑った場合の問題に切り替えたのである。『黄石公三略私抄』は『三略捷抄』と理解をいちじるしく異にしていた。その点は『三略』の「通志於衆」という文を『三略捷抄』が「シタ／＼ノモノマデニ心ヲクバリテ、惣ノカタジケナガルヤウニセヨゾ」と下々の者への心配りを重視するのに対し(4)、『黄石公三略私抄』は「此志ヲハ主人ノコ、ロサシニスル也、志ト云字十一ノ心ト書也、縦ハ、コウ子ノ子ヲハ白鯉魚ト云ハ十一ニテ学文キワマル故二十一ノ心ト書テ侍ト読ミ心サシトモ読也、主人ノ志ヲハ弘ノ行住坐臥ニ衆生ヲ

濟土アルカゴトクアマネク通セヨト云義也」と注釈している。「志」の字義を白鯉魚という学問をきわめた侍に投影して、慈悲のある侍をさすと解釈している。こうした点から、『黄石公三略私抄』は僧による『三略』の注釈書ということができる。

以上の点から、『黄石公三略私抄』の著者堯胤は密教僧と考えてさしつかえなからう。その際に底本とした『三略』、もしくはその抄物は、『三略捷抄』に引く『三略』の本文とは少しく異なっていたようだ。とはいえ、本書は豊臣政権期を生きた堯胤が世間をどのようかみているかを知りうる素材といえることはできるだろう。

## 二 『黄石公三略私抄』の主張

『黄石公三略私抄』の主張するところを検討してみたい。まず、引用文献は、漢籍らしいものに「語」、和書に「式条」「朗詠」、その他に「疏」がある。

「語」と記しての引用は、(186)の注釈に「語語云、君子ハ不ト移レ怒トナリ」とある。「語」の脇には「論」と傍注しており、『論語』とみていたようだ。ただし「君子不移怒」は『論語』にはなく、本書に「語曰」「語云」とみえる一一件のいずれも『論語』に同一文言を確認できなかった。とはいえ、(313)『三略』の「是故三略為衰世作」について『三略捷抄』は「シカル故ニ此三略ハ末ノ

世ノ者ノ為ニツクツタゾ」と口語訳しているだけなのに対して、①『黄石公三略私抄』は「語ニ曰、天下ハ一人ノ天下ニアラス、天下ノ天下也、子ヲ以テ子タラス、道ヲ以テ子トスルト云道理也」と詳細に注釈している。右の詞は『六韜』『文師』の「文師」にみえる太公の詞「天下非一人之天下、乃天下之天下也」からの引用とわかる（六韜二二頁<sup>11</sup>）。『黄石公三略私抄』は末尾に『六韜』の序文を記し、本文では右のように「六韜」と明示せずに『六韜』から一文を引用していた。

①の例と同様、『六韜』からの引用は以下の通りである。

② (107) の注釈の「語ニ曰、一人ヲ殺<sup>コロ</sup>而万人ヲ震<sup>コロス</sup>者殺<sup>コロス</sup>レ之トアリ」は、『六韜』「竜韜」の「將威」にみえる「殺一人而三軍震者殺之」が典拠である（六韜九九頁）。

③ (192) の注釈の「語ニ曰、以テ餌<sup>ヅクシ</sup>ヲ魚ヲ取ルル則ハ、魚ハ可<sup>コロシ</sup>レ殺<sup>コロシ</sup>ツ、以テ禄<sup>ツクシ</sup>ヲ人ヲ取ルル則ハ、人ハ可<sup>ツクシ</sup>レ竭<sup>ツクシ</sup>ト也、『\』重賞ノ下ニハ死夫アリトハ恩ヲ重ネル主人ニハ死スルツワモノアリト云義也」は、『六韜』「文師」の「文師」にみえる「以餌取魚、魚可殺、以録取人、人可竭」が典拠である（六韜二二頁）。

④ (201) の注釈の「語ニ云、天下ノ蠶<sup>コドク</sup>孤<sup>コドク</sup>獨<sup>コドク</sup>ヲ存養シトアリ、斯ノ文段ハ先勢ヲ以テ多勢ニ勝ハタ、恩賞ヲシマサレハ也」は、『六韜』「文師」の「盈虚」にみえる「存養天下蠶寡孤獨」が典

拠である（六韜二六頁）。

⑤ (304) の注釈の「語ニ曰、都ハ国ヨリ大イナルハ悪シ、臣ハ君ヨリ大イナルハ悪シト云儀也」は『六韜』「文師」の「六師」にみえる「臣無富於君、都無大於国」が典拠である（六韜三八頁）。ただし、引用に際して原典の文章を逆にしてしている。

以上、「語」の引用文二件中五件は『六韜』と判明した。その他六件は典拠を確認できていない。①の「天下」にみるように主となるものへの訓戒を重視し、③④⑤でも恩賞と臣下の重視の姿勢に関わる部分を引用して補強している。このことから、「語」とは特定の書物をさして呼んだものではなかったようだ。

次に「式条」は、(226) の注釈には「顔<sup>カヅハセ</sup>ヲ正クシテトハ、人ニ向トキ計リ正直<sup>カヅハセ</sup>ヲフリヨスルコト、『○』式条ニ面<sup>カヅハセ</sup>ヲ和ケ言<sup>カヅハセ</sup>ヲ工ムトアリ」とみえ、(360) の注釈に「人ノ『\』有<sup>タモツ</sup>ヘキ分領<sup>タモツ</sup>マテ我カ貪ルハ身ヲソコナウ、式条ニ所領ノ内ノ名主職ヲ横<sup>ヤマダ</sup>妨<sup>ヤマダ</sup>スルトアリ」とある。それぞれ『御成敗式目』からの引用で、前者は二八条の「二、構虚言致讒訴事」の冒頭「和面巧言」の部分、後者は三八条の「一、惣地頭押妨所領内名主職」からの引用である<sup>13</sup>。後者は領主側の行き過ぎを戒める部分として引用した部分である。そして、『朗詠』には「朗詠ニ暴臣衰<sup>虎</sup>唐狼ナシトアリ」の一文がある。これは『和漢朗詠集』の源順の漢詩「暴臣衰兮無虎狼」の一文を引用し

たものと知られる。<sup>15)</sup>

最後に「疏」をみておきたい。(392)の「悪者ハ其ノ誅ヲ受ク」に長めの注釈をほどこした後に「疏ニ疑心アレハ其国サダカナラス」の文が付加されている。この文と類似した文言には『管子』巻六「法法」第十六に「下有疑心、国無常経、民力必竭、数也」がある。<sup>15)</sup>ただし、『論語義疏』などからの引用かもしれないので摘録する程度にとどめておきたい。<sup>16)</sup>

『黄石公三略私抄』が仏教的世界観から『三略』を注釈・理解している点は先に指摘した。そうした理解は『三略』の「傷賢者殃及三世」の「三世」の理解に顕著にあらわれている。『三略捷抄』は「賢人ヲサ、エテ、ナガシツ、コロシツツタモノハ、ワザハイガ子孫三世代マデヲヨブゾ」と子孫三世代と理解している(431)のに対し、『黄石公三略私抄』は「賢人ヲアシクスレハワザワイ過現未ニ及フト云」と過去・現在・未来の三世と理解した。さらに「賢ヲヤブル者ハワザワイ三世ニ及フ」と理解して、「害三世ニ及フトノ古事イダイケ夫人ト云人子ヲモタス」、また、「仙人ト云人子トナラント申ス、夫人此仙人ヲコロス、ヤカテクワイ任アリ、亦博士申スヤウハ、此太子悪人ナラント申、此時、夫人タスケテ諸詮ナシトテ劔キノ上ニ彦ミカケル足ノキビスラスコシキリテシスルコトモナシ、成人シテ我カ足ノキビスヲ見テ、何キズト申セハ、ソ、ト申ヤウ、夫人ノワサ

ナリト申、太子サテハ我カ母ハカタキ也トテ夫人ヲコロス、過去ノ仙人、現在ノ太子、未来、夫人、是三世也」と注釈している。浄土関係の經典などにみえる韋提希夫人に関わる説話を引いて、三世の過去は仙人、現在は太子、未来は夫人に宛てて理解しており、本来の「三世」とは全く異なる。

こうした見方の根本には慈悲の考え方があった。それは(86)の「国幹」を「幹ハハシラト読也、縦ハ侍ハ国ノハシラノコトヲ也」とあり、侍を官吏と位置づけ「侍ト民ヲ見ル也」と百姓を直接に管理するものとし、(83)の「選士」では「イカニモ慈悲正直ノ侍ヲエランテ国ノ守護ニハスル也」と、登用する侍は慈悲深く正直者であるべきだと説いた点にうかがえる。そして、「国ノ内ニ侍ヲ、ク百姓スクナキコトアシ」と述べて、侍身分を減らすことが、武士を官吏にしていく上での要件と認識していた。このことは国家の経営と不可分で、(80)の「耕桑」の注釈では「アマリツヨクアマリコワク慈悲モナキ国ハ天道ヨリ憐ナキ故ニ自落スル也」と強権的で慈悲のない国は「自落」すると説いている。こうした考えの結果、統治する者に「道徳」を求めていく。

それは覇者への批判として現れ、(278)の「覇者制士以権」について、『三略捷抄』は覇者を中国斉の桓公、晋の文公をさし、覇者は王者に劣ると説明するのだが、『黄石公三略私抄』では「覇者ハ

摂政関白ノコト也、関白ニナルトハ、権ノ人ニテナケレハ、士卒法度ニカナワスト」と覇者を摂政・関白にあてて権力を集約した人物とした。また、(329)の「覇者之略」の注釈では「覇者謀リコトトハ、摂政関白タル人ハカヤウノ謀リコトヲコソナスト云儀也、縦ハ覇者ノ『。』論ヲナスハマダラトハ、摂政関白トシテ功アラソイアレハ、謀リコトマチクも也、マダラハマチクもノコト、論ハアラソウ方也」と記している。摂政・関白となる人物は謀略をなすと明言し、その原因は功を争うからだと述べている。その対極にある理想のすがたは、(324)の「中州善国、以富其家」の注釈にみえる「是ヲ三字中略シテ中弼ト云也、此国ハ弓矢モナク安全ノ国也、『。』其ノ家ヲトマストハ、其国ノ人家く富貴スルコト也」といい、「合戦のない安全な国」が「富貴」の基本だといっている。

『黄石公三略私抄』の著者堯胤が生きていた時代、関白は天正一三年(一五八五)に豊臣秀吉、同一九年に秀次が継承し文禄四年(二五九五)まで在任し、慶長五年(二六〇〇)以後は九条兼孝・近衛信尹らが継承する。このことをみれば、覇者の関白が秀吉をさすのは明白だろう。以上の点から、『黄石公三略私抄』は密教僧堯胤が慈悲の考え方を土台に『三略』を注釈した兵法書で、撫民思想にもとづく徳治主義による国家形成を願って著述した書物とみるこ

じめとする儒学によってのみ樹立されたのではなく、仏教など撫民と関わる考え方が広くその基盤を支えていたのではなからうか。

### 三 『黄石公三略私抄』の翻刻

〔凡例〕

- ① 『。』は朱合点・朱点。
- ② 漢字は異体字などを含めて通用の字体に変えた。ただし、不明のものはその通りとした。
- ③ 文字のふりがなは原則、右側につけた。また、単語・熟語に朱線を引いた部分は「慶長」のように横に傍線を引いて示した。

〔外題〕「黄石公三略私／『。』堯胤之／今ハ宥信之」

〔内題〕『。』黄石公三略上中下私

『。』黄石公三略上中下私

『。』夫トハ発タンノ言ハ也、『。』主ノ字ハ地水火風空ヲ五大ヲツカサトル也、是ハ一筆ニ書ク文字也、主人ニハ五大能ツト、ノウ人ヲスル也、此ノ主ノ字ヲハ司ルト読ム也、人ヲアマタツカサトルヲ主人ト云也、『。』将ノ字ヲハヒキツレト読ム也、人衆ヲアマタヒキツレルヲ大将ト云也、『。』法ノ字ハ大将ノ法度ト云義也、『。』務ト云字ハキワメ

テト読也、大将タル人ハ能ク文武両道ヲキワメルト云義也、如此ノ諸法度ヲ能クキワメルト云義也、『\』英雄トハ、千人ニ勝ル、ヲ英ト云イ、百人ニ勝ル、ヲ雄ト云也、英雄ノ二字ヲハ秀テ勝ト読也、『・』賞<sup>シヤウ</sup>、禄<sup>ロク</sup>トハ、賞ハモテアソフ、禄ハ宝也、賞ハナサケノ方也、タ、恩賞<sup>モテアソフカ</sup>之禄<sup>シヤウ</sup>ヲハ金錢ニスル也、功ハ

ハケマスト読テ臣下ノ忠信也、功スルコトヲト云、ソノ字ニ分別アリ、是ハ功ナキ人ヲハ情有間敷ト云義也、『\』志ヲ主ニ通ストハ、此志ヲハ主人ノコ、ロサシニスル也、志ト云字十一ノ心ト書也、縦<sup>コウ</sup>ハ、子ノ子ヲハ白鯉魚ト云ハ、十一ニテ学文キワマル故ニ、十一ノ心ト書テ侍ト読ミ心サシトモ読也、主人ノ志ヲハ仏ノ行住坐臥ニ衆生ヲ濟土アルカゴトクアマネク通セヨト云義也、『・』与衆同好ラスルトハ、君ハ臣下ヲヨキトモイ、臣下ハ君ヲヨキト思ハ、其国和合ニナリテ如何様ノ謀リコトモナラヌト云コトナシト云義也、\衆ト悪ヲ同スルト云ハ、上ノ文段ニテ知ル也、タ、不和合ノ故也、此文段ニハ好悪ノ二ヲ述ル也、『・』治<sup>ヲサム</sup>レ国<sup>ヲヤス</sup>ヲ安<sup>レ</sup>ス家ヲルトハ、其国ヲ能ヲサメ主人ノ家ノ不<sup>レ</sup>レ傾<sup>ハ</sup>、洞<sup>ニ</sup>賢才聖徳ノ人アレハ如此ト云義也、『・』国ヲ亡シ家ヲ破ルトハ、其国ニ可<sup>レ</sup>ル人ナドノ其国ヲウラミ他国エ往ケハ如此也、含<sup>カン</sup>気<sup>キ</sup>ノ類トハ、此レニ点<sup>ニ</sup>三<sup>カ</sup>有リ、カキトモ、ガウトモ、キトモ、キヲフクムトモ、何レモ同前也、氣ヲフクム類トハ、生<sup>ウ</sup>ラウクルホトノ物ト云コト也、人間ハ是非ニ不及、鳥類畜類ニ至ル迄モ其国ノ守

護人ノ心ヨカレト願義也、『・』軍識ニ曰クトハ、是ハ軍識抄ト云ツテ未来記ノ軍書也、此軍書ヲ以テ大唐ニ雖尤ト云鬼ヲ亡ス也、此ノ上略ハ此軍識抄ヨリ按出ス也、\柔ハ能ク剛ヲ制ストハ、柔ハニウワノ道理也、剛<sup>ガウ</sup>ハ金剛ノ性体ニテツヨキ形也、縦ハ柔和ノ人ハイカヤウナルツヨキ人ヲモシタカエルコト、柔

ヲハ水ト意得也、水ハ方円ノ器ニ随フ道理ニアリテ何トモ人ノマ、ニナレトモ、供<sup>供</sup>水ニナリテハ嶺谷ヲモ押クツス義、如此ハ堪忍ヲ肝要ニシテ、亦タツヨキヲハ一命ヲ限リト思ハ国家安全也、『・』弱<sup>ジヤク</sup>ハ能ク強<sup>キヤウ</sup>ヲ制ストハ、弱ハヨワキニ、『・』形チ強ハアラキ形チ也、弱<sup>ヨワキ</sup>ハ能クスル、亦ハ民百姓ニスル、強ヲハ大木大石ニスルナリ、大木大石ナトハ風ヲフセク物ナレトモ、大風ニナリテハ、大木モ大石ヲモ押カエス也、此意ニ何タルコトワキ国モ百姓ナケレハツ、カス、是ハヨワキヲ以テコワキヲ随エル形チ也、縦ハ柳ノ枝ニ雪ヲレハナシト道理也、柳ハ諸木ノ中ニモイカニモモロキ木ナレハ、風ニモヲレサル義、ツヨキハ風ニ負ル義也、『\』縦ハ天竺ニ刹利 波羅門 毘沙

首陀トテ四人ノ太子アリ、刹利ハ公家トナル、是廿氏也、婆<sup>ハ</sup>ラ門ハ武家トナリ、是八十氏也、『\』毘沙ハ商人ト、『\』首陀ハ百姓トナル也、如此ノ元来ハ兄弟ノワカサリ也、『\』柔ハ徳也トハ、兎角ニ柔和ノ人ハ命ヲ得ル方也、依テ得ナリ、述<sup>ル</sup>レ也、剛<sup>ガウ</sup>ハ賊也トハ、賊ハヌス人也、アマリツヨキ計リノ人ハ命ヲヌスマル、方也、依テ賊也ト述



ル也、弱人ノ助クルトハ、ヨワキ者ニハ憐民ノ心アリ、強ハ怨ノ  
 攻ルトハ、イタツラ者ハ我レト我カ身ヲ破ルハ、アタノ我カ身ヲ攻  
 ル義也、柔ニ設ル所トハ、柔和ノ者ハ身体ヲ破ラサルハ、夕、設ル  
 方也、剛モ施ス所トハ、アマリツヨキ計ノ人ハ命ヲステマシキ所ニ  
 テスツルハ、夕、施所義也、弱モ用ル所トハ、縦ハ陣ナトヲ取ルニ  
 弱キ者越度有ル間敷所ヲ

見アテ、取レハ、士卒ニツ、カナキ也、依テ弱ヲ用ル義アリ、強ニ  
 加ト云ハ、加ト云字クワエルト読也、コワキ人ハ一人トヲモエト  
 モ、アマタノ人ヲクワエル義也、此ノ「柔」剛「剛」和  
 「強」強、四ノ物ノ内ニテ可レ尔方ヲ分別セヨト云義也、「端」端末未  
 不レ見トハ、端ハ始メ、末ハスエナリ、未タ敵ヲ直ニ不レ見義也、弓  
 矢ノ始終兼日難レ知ト云義也、人ト能ク知ルコトナシトハ、人間ハ始  
 終ヲ能ク分別スル人ハ世間ニスクナカラント云義也、「天地」天地ハ神  
 マイニシテトハ、天地ヲハ神仏ト云義也、是ハ弓矢ノ始終ハ神仏ナラテハ  
 知リカタシト云義也、「物」物ト押移ルトハ、四季転変ノウツサリカ  
 ワルコト也、縦ハ春ハアタ、カナルベキコト治定ナレトモサエ、カ  
 エツテサムキコトアリ、弓矢ハ勝テ負ケ、負テモ勝ツ也、「一」  
 タ、物一返ナルコト悪シ、「語」語ニ曰、「聖人ハ能ク物ト押移ルト  
 アリ、聖人ハ転返ラ能ク知ル義也、「語」語曰、劔去テ舷刻兔ト逃  
 テクイゼヲ守トテ、夕、弓矢ハ返ナル方アシキ也、「変動」常ナ  
 カエリウゴコ

シトハ、変動ハ変化也、常ナシトハ、不定ノ義也、常住ハ定リタル義  
 也、「因敵転化」因敵転化トハ、何トモ敵ノ行ニ依テコソハ味方ノ返化  
 モアラントノ義也、「事」事○タラストハ、敵ヨリサキニ行キエスキ  
 義也、動時ハ輒随トハ、敵ノハタラキヤウニシタカイテ備有ル  
 ベキトノ義也、「圖制疆」圖制疆トハ、図ハハカル、制ハ法度、疆ハキ  
 ワマリナリ、夕、国郡ノサカイヨヨクハカツテ、其国郡ノキワマリ  
 ヲ能禁制スルコト也、「天威ヲナシタスケトハ、夕、シク乱  
 ル、所ヲミタレザルヤウニスル義也天然トシテ威勢ヲ振ルト云義也、一  
 八極ヲ匡シ正ストハ、四方八方ノサカイヲ能クシテ、乱ル、所  
 ヲミタレザルヤウニスル義也、九夷ヲ密定トハ、九夷ト八九ノエヒ  
 スト云義也、東ニ九ノ夷スアリ、如此大将ハ夷ノ国マテ能クシタカエル  
 義也、「南海ノ末」皆胡国アリ、サリナカラ東ノ夷棟梁也、先九ノ夷トハ、

リ南海ノ末ニ皆胡国アリ、サリナカラ東ノ夷棟梁也、先九ノ夷トハ、  
 文兔・楽浪「高麗」高麗「島夷」島夷「索家」索家「東夷」東夷「倭人」倭人  
 「友鄙」友鄙「満飭也」満飭也「如是ノ謀者名人ヲハ帝王ノ師トス  
 ルハ、帝王ハ謀コト上手ノ人、太公望ナドノヤウノ人ヲ師トスル也、殷ノ  
 高宗ハ伝悦ト云人ヲ師トスル、殷ノ陽王ハ伊尹ト云賢人ヲ師トスル也、  
 「莫」莫不ト云コト貧レ強トハ、謀コト名人ノ賢人ヲ持ハ何タル強  
 ナル国ヲモ取ラヌト云コトハナキ也、「能」能微ヲ守ルコトスク  
 ナシトハ、落居衰微スヘキコトヲ能ク守ル人ハスクナシト云義也、聖

人ナトハ其国行末衰微スヘキコトヲ兼テ分別シテ、悪シキ主人ノ儀代ニハ深山ニ引キ籠リテ浮世ヲ直シ、名王ノ代ニハ出テ奉公スル也、家ニテハ能ク微ヲ守ルコトスクナシトハ、敵ニ能ク衰微スヘキコトヲ分別スル人ナキ儀也、『ㄱ』若能ク微ヲ守ルトハ、自然カヤウノ分別ノ賢人モアラバ、其国ノ人命全ク道理也、『ㄱ』聖人ハ存レ之テトハ、聖人ハ落居ラ能ク存ル者也、『ㄱ』動クコト事ノ機ニ応ストハ、機ハクルト読也、亦ハアヤツリトモ読也、応ストハカナウト読ム也、落居ノ分別ニヨクカナウ義也、『ㄱ』舒レ之ヲトハ、此事ハ能ク習フコト也、四海ニワタルトハ、東南西北ヲ自由ニスル事也、『ㄱ』倦レケ之ヲハトハ、此書ヲラシマケハフトコロニモタラヌ物本ト云義、亦タ此書ヲ

懷中ニ卷ヲサムレハ、フトコロ中ニモワザワイ無キト云義也、『ㄱ』居レ之ヲ室モヲ以テセストハ、此書スコシノ物ナレハ、ウキ所ニ台家ニアラザル事也、『ㄱ』守レ之ヲ城郭ヲ不レス以下トハ、此書ヲ能分別スレハ、城モイラスト云義、三里アルヲ城ト云イ、七里アルヲ郭ト云、タ、大小ノ事也、『ㄱ』之ヲ『ㄱ』胸臆ニ藏レハ敵国服ストハ、服ハ版服ノカタ也、版服ハシタカウ道理也、此事ヲ胸ニヨク納レハ、敵ヲナス国皆シタガウ儀也、『ㄱ』能柔ニ能ク剛ナレハ、其国光レリトハ、能ク柔和ニ能クツヨキ人ノ国ハ、縦ハ日月ニ一点ノ曇モナキ道理也、『ㄱ』能ク弱ニ能ク強ナレハ、其国彰ル、トハ、法度何ク迄モカクレナキ義也、『ㄱ』純柔ニ純弱ナレハ、其国他所ヨリトラル、

縦ハ人間ハ骨肉ヲタ、エル所ニ肉計リニテハ不レ叶義也、『ㄱ』純剛ニ『ㄱ』敵ニ睦クトハ、敵ノ懇切ニナルコトサヤウナラハ、味方モソレニシカエ云義也、『ㄱ』携トハ随フコト也、『ㄱ』順レテ拳ニ挫レ之ヲトハ、陣モ勸ニハ慎ナリ、末ニナラハ、行ヲナセト云義也、亦ハノケハニセヨト云義也、『ㄱ』因ニテ勢ニトハ、味方ノ伊勢ホト敵ヲハ破レト云義也、『ㄱ』放言ハケンクワノコト也、敵陣ニケンクワアラハ、四方ヨリアミノコトク懸レト云義也、『ㄱ』得テ有ルトハ、心トクヲシテハ其トクヲ其マ、タモツベキトヲモウハアシキ也、タ、施ス心ヲ持アラハ其宝ヲモ有也、『ㄱ』居守ルコトトハ、大將遠国ノ地利ヲトリテ、其地利ニ居ルコトアシキ義也、『ㄱ』杖テ久クスルトハ、長陣ナラハ悪シキト云コト也、『ㄱ』立テ取ルコトナカレハ、大將マカセベキ人ニ哀ヲマカセヌコトアシ、『ㄱ』為者ノハ即己ナリトハ、行ヲ能クスル人コソサナカラ主人ナレト云義也、『ㄱ』有者ハ則士ナリトハ、国ニヨリモツ者コソ、タ、士ナレト云義也、『ㄱ』焉ゾ利ノアラユル所トハ、何レノ文段ヲ取リテ利潤ニスベキトノ義、自分ノ利潤ヲ本ニセスシテ、道アラユルホトノコトヲ本ニセヨト云義、『ㄱ』彼レハ為リ諸侯ハ、己ハ為リ天子トハ、政リコト正クテコソ諸侯モ々々タリ、天子モ々々タラント云義、『ㄱ』使シテ城自保ツトハ、正道正クテコソ敵城ヲ取リテモ能ク保テ、士ヲエテモ能ク保ツト云義也、『ㄱ』世能ク祖ヲタスルトハ、大唐ニ

テハ神ト云コトナケレハ、祈念ニハ先祖ノ廟ヲマツル也、夕、先祖ヲマツルヲ祈念トスル、『\\』下ヲ下トスルトハ、民ヲ憐□コト也、縦ハ先祖ヲハ能クマツレトモ、百姓ヲ憐ム人□クナシト云文段也、『\\』為レ親トハ、親ハシタシ、トモ□ヤトモヨンデ、夕、孝々ノ義也、為レ君トハ、下ヲ憐ム主人ヲ□君トモ云イ、大将トモ云也、爰ニハ先祖ヲ能クマツルハ孝々ノ方、百姓ヲ憐ハ主人ノ法度也、『\\』耕桑トハ、耕ハ田カエストヨム、桑ハクワノ木ノコト也、山家ナトニテハ桑ノ木ヲウエテ、其ノ葉ヲ取リテコガイヲシテ

年貢ト云上ニテ可レ見レ之也、

純強ケレハ其国亡ル、アマリツヨクアマリコワク慈悲モナキ国ハ天道ヨリ憐ナキ故ニ自落スル也、『\\』夫国ヲ能ク納ンモノ、大将ハ先賢人ヲ愛シ、百姓ヲ肝要ニスル也、『\\』賢ヲ信ルコト腹心ノコトクトハ、賢臣ヲ信仰スルコトハ、我腹中ト同前ニセヨト云義也、『\\』使レ民□コトハ、我カ四足ノコトクト云義也、策 无レ遺コトトハ、如○之賢構ナレハ、如何様ノ策コトモ、ノコラス能ク成就スル義也、『\\』支体□四足ノ相隨骨節ノ相救カコトシトハ、我カ手足ノ我マ、ニナリ、我カ骨節ノ我ニ能隨カコトク、民百姓モ身ヲヲシマス、臣下モ能奉公スルコト也、『\\』天道ハ自然ナリトハ、天道ハ法尔自然トシテ憐アルコト、『\\』悪アリトハ、天道我ト一味ノ義也、『\\』軍国ノ要トハ、軍ヲヲコサント思フ国ノ肝要ハト云義也、衆ノ心ヲ

察セヨトハ、アマタノ心ヲ能ク推量セヨト云コト、『\\』旨務ヲ施ストハ、旨ハムネト読ミナサケノコト、務ハツトムルト読ミテ所務ノ事也、施スハ出スコト也、『\\』危者トハ、スコシツ、越度アル者ノコト也、安セヨトハ、越度モ少ツ、ナラハ、ユウルセト云義也、懼ル、者トハ、主人ヲ□クシンスル者ヲハ、主人ヨリ情ノコトハカケテ、其身モ歡喜ノ心ヲセヨト云義也、『\\』叛者トハ、謀叛ナトシテ他国ヨリ来ル人アラハ、其国エカエスコト、我人他国エ行ハ我國エカエスコト也、『\\』冤スル者ヲハタツネヨトハ、アタヲナシサウノ者アラハ、主人ヨリ子細ヲ尋ル也、其上詮議ナキ恨ミヲ主人ニナサハ、主人ヨリ情ヲカケル、亦夕非分ノ恨ヲナサハ、其身ヲ死罪ニ行也、『\\』語ニ曰、理コトヲ理ネハ、返テ乱ヲ招クトアリ、此レニハユルスト云点、タツネ

ヨト云点ニアリ、『\\』訴ル者トハ、訴訟ナントスル人アラハ、早其身ノ心ヲ叶エテ明ニセヨト云義也、察ハ明也ト云義也、卑者ヲハ、貴トハ、無名ノ人ナラハ官ナトヲ出スコト、『\\』強キ者ヲ抑ヨトハ、アマリ強氣ノ人ヲハ押籠ルカニ使也、『\\』敵スル者ヲハ、残トハ、自分ヲ待テ敵ヲナサント思フ人アラハ、弓矢ヲコサシテ以前ニ退治スル也、『\\』貧スル者トハ、不如意ノ人ナトヲハ分限ヲアタエル也、豊トハ、分限ノコト、『\\』欲スル人トハ、器用ノ人奉公ヲ君ニナシ度トホツスル人ヲハ、夕、チカツケテ使ヘキ也、

『ㄨ』畏<sup>ヲソル</sup>ル者トハ、臆病者ノコト也、臆病ノ者人ニハ大事ノ行ヲ行ハカクスヘキ也、『ㄨ』讒<sup>ザン</sup>スル者トハ、ヤ、モスレハ讒言ヲ企ツ者ハ身体ヲウチバナニスル也、『ㄨ』覆<sup>フカスル</sup>トハ、コホスト読也、『ㄨ』毀<sup>ソレ</sup>ル者トハ、他人ノコトヲワシラハ、返テ推量シテ我身ヲモソシラント云義也、『ㄨ』變<sup>カワル</sup>スル者トハ、覚悟ノ落ツカヌ豹変スルコト也、廢<sup>ハイ</sup>スルトハ、ステヨト云義也、『ㄨ』横ナル者トハ、横<sup>ヨコ</sup>ノ字ヲハホシイマ、ト読也、是ハ横道ノ心也、縦<sup>タテ</sup>ハ我カ居ヲハ次ニシテ、他ノ主人ナドヲ稼<sup>カセ</sup>クコトナリ、亦ホシイマ、云義ハ、兎角ニ横道ノ形也、『ㄨ』満<sup>ミチ</sup>ル者トハ、アマリ十分ノ者ヲハ分限ヲスクナクセヨト云コト、『ㄨ』販<sup>キ</sup>スル者トハ、販服ノコト也、他所ヨリ来ル者ノコト也、他国ヨリ我<sup>エ</sup>心ヲヨスル者ヲハハヤクマネク也、『ㄨ』服<sup>フク</sup>スルトハ、食ナトヲコトヲカク人也、是ニハ扶<sup>フチ</sup>助ナトヲスル也、『ㄨ』活<sup>クワツセヨ</sup>トハ、ヨミカエルト読也、不如意者ニ扶持ヲスルハ、ヨミカエル道理也、『ㄨ』降<sup>カク</sup>スル者トハ、『ㄨ』降<sup>サン</sup>参スル者ヲハ早ヤクユルセ、『ㄨ』獲<sup>エテカキテ</sup>レ固<sup>カタ</sup>トハ、堅固ノ城ヲ取<sup>トル</sup>テイカニモ能クステズシテ守也、『ㄨ』泥<sup>サカ</sup>シキトハ、悪シキ城也、是ハ取<sup>トル</sup>テモ早クワリテステヨト云コト、フサケトハ、ステル心也、『ㄨ』難<sup>カタ</sup>ラエテハ

『ㄨ』地ヲエテトハ、所領ヲトリテモ人数ニハフク也、ㄨ財ヲエテトハ、俄<sup>ト</sup>ニ得<sup>ト</sup>ヲセハ心ニ施<sup>セ</sup>ス義ヲモツ也、散<sup>ウツ</sup>ハチラス義也、『ㄨ』敵<sup>テキ</sup>ハ伺<sup>ウカガ</sup>レトハ、敵ノハタラクベキモヤウアラハ、早く主人ニツケル、『ㄨ』敵<sup>チカガハ</sup>近<sup>チカ</sup>備<sup>ヒ</sup>之トハ、連々等閑ノ者俄<sup>ト</sup>ニ近ツカハ、我心ノ備<sup>ヒ</sup>ヲ堅固ニ持也、『ㄨ』敵<sup>キヤク</sup>強<sup>キヤク</sup>ナラハ下レトハ、強敵ナラバウチバナセヨト云義也、『ㄨ』敵<sup>イツ</sup>佚<sup>イツ</sup>ナラハ、佚<sup>イツ</sup>ハ安也ト云字訓ニテ安全ノ方也、敵陣<sup>ニ</sup>喜<sup>ニ</sup>ノコト有<sup>ラ</sup>ハ、味方陣ヲ少シシリソク也、『ㄨ』敵<sup>シノカ</sup>陵<sup>シノカ</sup>ハトハ、切所ノコト也、敵切所エカ、ラハ、能クマチウケベシ、『ㄨ』敵<sup>ヘウ</sup>暴<sup>ヘウ</sup>トハ、敵俄<sup>ニ</sup>懸<sup>ニ</sup>ラント云義也、綏<sup>ヤンシセヨ</sup>レトハ、ユルスト読也、味方ハ備<sup>ヒ</sup>ヲクツスマテ一戦スベキ也、『ㄨ』敵<sup>ミクラハ</sup>悖<sup>ミクラハ</sup>トハ、敵ノシドケナキコト也、義<sup>ヨクセヨ</sup>レトハ、

『ㄨ』選<sup>エラシメテ</sup>士<sup>シ</sup>ヲトハ、イカニモ慈悲正直ノ侍<sup>サウライ</sup>エランテ国ノ守護ニスル也、『ㄨ』司<sup>シ</sup>牧<sup>ボク</sup>トハ、ツカサヲヤシナウト読也、タ、国ノ守護ノコト也、『ㄨ』士<sup>シ</sup>者英雄トハ、タ、司<sup>シ</sup>牧<sup>ボク</sup>ナトニハ千人万人ニ勝レタ

ル人ヲスル也、『\』英雄ヲツラヌルトハ、ヨキ人ヲ任所エヤラズヲクコト也、ツラヌルハツナク心也、『\』敵国窮ストハ、窮ハ困窮<sup>コシキウ</sup>方也、味方ニヨキ人ヲ持テハ、自然トシテ敵国ハ困窮也、

『\』国<sup>コク</sup>ノ幹<sup>カン</sup>トハ、幹ハハシラト読也、縦<sup>タテ</sup>ハ侍<sup>シ</sup>ハ国<sup>クニ</sup>ノハシラノコトク也、『\』哥<sup>カ</sup>ニ曰、世中ニフトカルベキハ宮柱ホリカルベキハコ、ロナリ仮利、『\』庶民ハモロくノ民ト読ム、百姓ノ異名也、百姓ハ木ナラハ根也、侍<sup>シ</sup>ハ木ノネ立也、『\』其ノ幹ヲ得<sup>ト</sup>テ本ヲ取ルトハ、侍<sup>シ</sup>ト民ヲ見ル也、『\』無<sup>ク</sup>レ怨<sup>ウラミ</sup>トハ、国<sup>クニ</sup>エ怨敵<sup>ウラミ</sup>ヲスル者ナシト云義也、『\』兵<sup>ヘイ</sup>ヲハ用ルトハ、ツワモノヲ用ル、其肝要ヲト云義也、『\』礼<sup>レイ</sup>ヲ貴<sup>キ</sup>トハ、賢人也、夕、賢人ヲタツトシテト云心也、『\』禄<sup>ロク</sup>重<sup>ジュウ</sup>シトハ、タカラヲ賢人ニカサネル義、『\』知<sup>チ</sup>士<sup>シ</sup>至<sup>シ</sup>ルトハ、知惠<sup>チ</sup>アル侍来ルコト、『\』義<sup>ギ</sup>士<sup>シ</sup>死<sup>シ</sup>ラカロンスルトハ、禄<sup>ロク</sup>ヲエレハ義理<sup>ギ</sup>ノ侍<sup>シ</sup>ハ死スルコトヲカルクヲモウナリ、『\』賢<sup>ケン</sup>ヲ禄<sup>ロク</sup>スルトハ、主人<sup>シ</sup>ハ賢人ヲタカラ<sup>シ</sup>スル也、財<sup>サイ</sup>ヲヲシマストハ、賢人ニヲシムナト云義也、『\』賞<sup>ショウ</sup>功<sup>コウ</sup>ヲ時<sup>トキ</sup>ヲコエストハ、忠臣アル臣下ニハ

時剋<sup>トキ</sup>ヲ不<sup>レ</sup>移情<sup>シ</sup>アレトノ義也、<sup>カカリ</sup>力<sup>リキ</sup>トハ、万民力<sup>リキ</sup>ヲ合ルコト、『\』人<sup>リ</sup>ヲ用<sup>ユ</sup>トハ、アマネク人<sup>リ</sup>ヲ亡<sup>シ</sup>ラサヌコト也、『\』尊<sup>ソウ</sup>ズ<sup>ツ</sup>爵<sup>シャク</sup>ヲ以<sup>テ</sup>トハ、悪人ノ人<sup>ニ</sup>官使<sup>クワンシ</sup>ヲアタエルコト、爵<sup>シャク</sup>ハ位<sup>イ</sup>イナリトテ位<sup>イ</sup>ノコト、『\』贍<sup>シヤク</sup>トハ、アマネ<sup>ニ</sup>バシト読ミテ分限<sup>ブンゲン</sup>ヲアタエルコト、『\』控<sup>コネク</sup>ルトハ、マウクルト読、賢人<sup>ケン</sup>ヲマネクニ礼<sup>レイ</sup>タ、シケレハ来ル也、

『\』励<sup>ヘキ</sup>ストハ、イカルト読ム、是<sup>ハ</sup>義理<sup>ギ</sup>ヲ以<sup>テ</sup>イカル主人<sup>シ</sup>ニハ士命<sup>シ</sup>ヲスツル也、『\』将帥<sup>シャウ</sup>トハイクサ也、大将<sup>ダイ</sup>イクサヲ心<sup>シン</sup>ニカケハ、士<sup>シ</sup>滋味<sup>シ</sup>ヲ心<sup>シン</sup>前<sup>ゼン</sup>ニスル也、滋味<sup>シ</sup>ハウルヲイ、味<sup>ミ</sup>ハアチワイ也、ウマキ食<sup>シ</sup>ヲモ我<sup>ガ</sup>レ一人<sup>ヒト</sup>口<sup>ク</sup>クウベカラスト云儀也、『\』安危<sup>アヒ</sup>ヲ共<sup>トモ</sup>トハ、アヤスキコトヲモ安全<sup>アヒ</sup>ノコトヲモ、君臣<sup>クニ</sup>ハ一味<sup>イツ</sup>ニト云儀也、『\』敵<sup>テ</sup>シノクトハ、敵味<sup>テ</sup>方<sup>ハ</sup>ニナルコト、『\』兵<sup>ヘイ</sup>全<sup>ケン</sup>勝<sup>ショウ</sup>トハ、幾度<sup>イツ</sup>モ勝<sup>ショウ</sup>コト也、孫<sup>ソ</sup>ハ子<sup>シ</sup>ニ四百<sup>シヨク</sup>戦<sup>セン</sup>ノ百<sup>ヒャク</sup>勝<sup>ショウ</sup>ハ戦<sup>ケン</sup>カ戦<sup>ケン</sup>ニマク

ト云心也、『\』敵<sup>テ</sup>トマルトハ、敵<sup>テ</sup>ヲ押籠<sup>オシカケ</sup>ラレタルコト也、罔<sup>コト</sup>セシノ位<sup>イ</sup>ニスルコト、『\』昔<sup>コト</sup>シトハ、黄帝<sup>コウ</sup>ノ代<sup>ダイ</sup>ヲ指<sup>サシ</sup>テ云也、良<sup>リヤウ</sup>将<sup>シャウ</sup>トハ、ヨキ大将<sup>ダイ</sup>也、簞<sup>ダン</sup>ハタカツ、サ、イナトノ事也、『\』膠<sup>カウ</sup>ハフルサケ也、河<sup>カ</sup>ニ投<sup>トウ</sup>ジテトハ、河<sup>カ</sup>ニナゲ入<sup>イ</sup>レテノ義也、『\』士卒<sup>シ</sup>流<sup>リウ</sup>レラ心<sup>シン</sup>シトハ、君臣<sup>クニ</sup>其<sup>ソノ</sup>流<sup>リウ</sup>ヲ同然<sup>ドウゼン</sup>ニ吞<sup>ツク</sup>コト、『\』一<sup>イツ</sup>簞<sup>ダン</sup>ノ膠<sup>カウ</sup>トハ、サ、イ一<sup>イツ</sup>ツ計<sup>ケイ</sup>リノ酒<sup>シウ</sup>大海<sup>タイ</sup>エ投<sup>トウ</sup>レハ、其<sup>ソノ</sup>味<sup>ミ</sup>ナケレトモ、情<sup>セイ</sup>ヲ以<sup>テ</sup>テ三<sup>サン</sup>軍<sup>クン</sup>ノ士卒<sup>シ</sup>命<sup>メイ</sup>ヲスツル也、『\』一<sup>イツ</sup>軍<sup>クン</sup>ハ二<sup>ニ</sup>万<sup>マン</sup>五<sup>ゴ</sup>千<sup>セン</sup>人<sup>ニン</sup>ノコト也、『\』滋味<sup>シ</sup>ノヲノく<sup>ク</sup>ニ及<sup>キ</sup>フトハ、万人<sup>マン</sup>ニアマネク其<sup>ソノ</sup>情<sup>セイ</sup>ノ味<sup>ミ</sup>通<sup>ツウ</sup>ルコト也、『\』軍<sup>クン</sup>井<sup>セイ</sup>トハ、諸<sup>シヨ</sup>軍<sup>クン</sup>井<sup>セイ</sup>モホラレタルニ、大将<sup>ダイ</sup>水<sup>スイ</sup>ニウエタルト云ベカラス、渴<sup>カフ</sup>ハ水<sup>スイ</sup>ウエト読也、『\』軍<sup>クン</sup>幕<sup>マク</sup>不<sup>レ</sup>弁<sup>ベン</sup>トハ、軍<sup>クン</sup>陣<sup>ジン</sup>ニ幕<sup>マク</sup>引<sup>キン</sup>クヘキワキマエモナキニ、将<sup>シャウ</sup>ヤスミタキト云ベカラス、倦<sup>ウム</sup>ハヤスムト読、『\』軍<sup>クン</sup>寵<sup>チュウ</sup>未<sup>ミ</sup>炊<sup>シ</sup>トハ、寵<sup>チュウ</sup>ハカマ<sup>カマ</sup>也、諸<sup>シヨ</sup>軍<sup>クン</sup>ナベモスエザルニ、将<sup>シャウ</sup>ヒタルキト云ベカラス、飢<sup>ウ</sup>ハウエル也、

『ㄨ』フユフシトモ 冬 サヒシトモ、臣下ニ 裘カワコロモヲ不レ着、将モキベカラス也、  
 □□ノ狐キツネノ下腹シタハラノ毛ヲク、リテキルヲ云、『ㄨ』夏ノ内ノ炎天ニモ諸  
 軍扇ソウヲツカワズハ、将モツカウヘカラス、縦『ㄨ』雨降ルトモ、士  
 卒ヌレハ、将モヌレヘキナリ、是ヲ侍ノ三ツノ礼ト云、『ㄨ』与トモニ  
 之共安クトハ、安危ノ二ノ君臣同前ト云義也、『ㄨ』衆シユ其可カナクレ合ト  
 ハ、サヤウノ主人ニツイニ臣下离ル、コト無キコト也、『ㄨ』可ヘク用  
 シテ『ㄨ』勞ツカル不レ可トハ、君ノ義ヲ能ク用イテ、辛勞ヲ辛苦ト不レ思  
 コト也、『ㄨ』恩モトヨリタクワエルトハ、恩賞モ俄ニイダシタル  
 ハナサケウスキ也、下地ヨリ久ク出シテコソ謀リコトヲモ和合ニスルト  
 云義、『ㄨ』恩タクワエルヲ蓄ニ不レ倦ウマサトハ、恩受ル人ハ我カ身ヲ我身ト思  
 ワス、奉公ヲコトヲラ」  
 スルコト、『ㄨ』一ヲ以取ル万ヲトハ、一人ニヨク情アレハ、下人手  
 足カルキ也、万人ニカエサル人ヲ一人モツカエト云義アリ、『ㄨ』語  
 ニ曰、一人ヲ殺コロ而万人ヲ震コロス者殺レ之トアリ、『ㄨ』将ノ威ヲナスハ  
 『ㄨ』号令ナリトハ、大将ノ威勢ノ有モナキトモ、号令ノ言ニ依テ也、  
 将ノ儀ヲ用ルヲ号ト云イ、不レ用イ令ト云、早ナシ、威アリ、令ナレ  
 ハ、威ハナシ、『ㄨ』戰タケカノ全勝ハ將軍ノ政コトニヨル也、『ㄨ』士カノ戰  
 ヲ輕カボシルトハ、亦命ヲ用ルトハ、侍ノ一戰ヲカルク思フハ、主命ヲ能用  
 故也、『ㄨ』将ハ令ヲカエサストハ、令ハ法度也、夕、大将臣下ニ法  
 度ヲアツケタラハ二度取りカサ、ル也、三是思惟九詞一言ノ道理也、

『ㄨ』賞罰必ス信スルトハ、『ㄨ』如レク天如レク地セハトハ、賞罰ヲハ天  
 地ニスル心ハ、賞ズベキキ□者ヲハ賞シ、罰スヘキ者ヲハ罰スル義、  
 賞スベキ人ヲ罰シ、罰ス  
 ベキ人ヲ賞スルハ、天ハ地トナリ、地ハ天トナル義也、『ㄨ』人ヲサハルヲ御  
 ルトハ、其ヤウノ主人コソハ、国ニ人ヲモ能ク收ル義也、『ㄨ』士卒  
 命ヲ用ルトハ、臣下主命ヲ能ク用ル義也、『ㄨ』境ヲ越ルトハ、敵地迄  
 能ク押領スル義也、『ㄨ』統スベレ軍、持ク勢、統ハトウリヤウノ義也、軍  
 ヲヨクマ、ス義也、『ㄨ』勢ヲ持トハ、伊勢ヲ能ク持クコト也、『ㄨ』  
 語ニ曰、兵ヲ提ヒツサケ將ヲ統カフルハ帝王ノ虎符アリ、宗セウヲ領シ法ヲ帶ヒモノニスル  
 ハ、祖師ノ心即ニ有リ、『ㄨ』制セイレ勝カフトハ敵ヲ破ルハ衆也トハ、衆ハアマ  
 ネ也、是ハ衆力功ヲナス義也、『ㄨ』凡將トハミタリガワシキ団ウヂ取リ  
 ナトノコト、悪シキ者ナトニ軍イクサノ下知ヲ云イ付ルコト悪キ也、  
 『ㄨ』乖クワイ衆トハ、衆ニソムクト書テ、自衆一味セス我カマ、ニスル  
 士卒也、『ㄨ』此ノヤウノ人ハ、制ハツ伐ナキヲ云イ付ルコト悪シキ也、  
 『ㄨ』城ヲ責セムル時ハ、ヲ」  
 ストハ敵城ヲ不レ破コト也、『ㄨ』語ニ曰、家ヲ以テ国ヲ取ル則ハ、国ハ  
 ナイツベシ□アリ、『ㄨ』邑ユウヲ凶ハカルル則ハ不レ廢トハ、邑ハ里在郷也、  
 不廢ハ不レ破ト云義也、乱將ノ乖クワイ衆ニテハ、何事ノ行謀リコトモナ  
 ラヌト云義也、『ㄨ』二ツ物無レ功トハ、乱將ト乖衆ヲ分別セヌコト  
 也、『ㄨ』士リヨク力ツカレツ。エスルトハ、悪キ団取リ、悪キ士卒ニテ

ハ、悪体ノ辛勞ニテ、人衆勞兵スル也、『』將孤ニシテ衆ヒトリ也ト云ハ、主人ハコモノ独リナルコト也、『』以テ守則ハ不レ固、如此ノ道理ヲ分別セスシテ、敵エ弓矢ヲ取リカケレハ、味方ノ陣堅固ナシ、亦戰ヲナセトモ敗北ノコト也、『』老兵トハ、人衆ツカル、コト也、『』將ノ威不レ行トハ、大将威勢ナキコト也、大将威勢ナケレ□、士卒法度ヲカコンスル也、『』刑ハ法度也、『』軍伍失トハ、伍ハコテワケノコト、異国ニテハ廿一  
五人ニモノ主一人ツ、ソエル也、五々廿五ノ勘定也、依テ伍ノ字ヲコキツトテ読リ、『』敵利ニ乘スルトハ、味方サマクニ乱ルレハ、敵悉ク勝利ヲ得ル也、其末ハ大将軍皆亡ル也、『』良將ノ統レ軍ヲトハ、ヨキ大将軍ヲ棟梁ニスルハ、我身ヲ分別シテ人ノ辛勞ヲ思イヤリテ、人ニイサミヲ付ル主人ヲコソ棟梁ノ主人ト云也、『』惠ヲ推テトハ、人ノ辛勞ノメクミヲ能クス推量シテ人ニ情ヲ施セハ、士卒力ヲ得ルコト、月ヲ追テ増進スル也、カヤウノ大将ハ、戦イナトヲスレハ、大風ノ古木ヲ吹ユルコトク也、亦ハ供取ナトノ嶺谷ヲ押サクルゴトク也、『』其衆トハ、敵ノ士卒我國ヲノゾミ来也、『』不レ可レ当トハ、敵我國ヲモイカケザルコト也、『』可レ下ルトハ、幾度モ負ベキト云コト也、『』身ヲ以テ人ニ先トスルトハ、味方ノ士卒戦シサキト心カケルコト、『』其兵天下ノ雄タル□サヤウノ兵ノ大将ハ万人ニ勝ル、ト云義也、『』賞ヲ以テ表トシ、罰ヲ以テ裏ト

スルトハ、主人ハ賞罰ヲウラヲモニスル義也、賞計ニテモ悪シ、罰計ニテモ悪キ也、『』官ニ人ヲ得トハ、悪名ノ者ニ官位ヲ出セハ、他国ヨリモ官位望ミノ者ハ来テ、奉公禄ナクシテスル也、服スルトハ、版服ノ方也、『』所レ任賢ナルトハ、其国ニ有ルホトノ人賢人ナラハ、敵国ハ皆ヲソレヲナス、『』震ハフルエル心也、『』賢者ノユク所トハ、大公房ナトノユク先ニ敵ナキト云○、『』可レ下ル不レ可レ下驕トハ、敵ノコト也、『』可レシテ樂シテ、『』不レ可レ憂トハ、味方ノコト也、『』謀リコト■可シテ探ルベクシテ『』疑心ノ人ト談合悪シ、『』士驕ル則ハ『』下モ不順トハ、大将ヲコルトキハ臣下不順、  
『』將憂則ハ内外相不レ信セトハ、大将ノ身ノ上ニ苦勞アレハ、ウチトノ人信仰セス、『』謀コト疑トハ、味方ノ謀コトハ疑心アレハ敵国ツノル、旧トハ、フルクナル義、旧キハツノル方、此レヲ以テ攻ウツトハ、アルイハ謀コトニ疑心アリ、味方ノ大将アマリ驕リテ、我マ、ナトヲスル国ヨリ弓矢ヲコセハ、必ス乱レアリ、『』將ハ国ノ命トハ、大将ハ国ノ命ナリ、大○ハ幾度モ勝ベキ行ヲスレハ、其国安全ニテ能定也、『』將ハ能ク清クトハ、大将ハ心ヲイサキヨク持ツコソ肝要也、清トハ、臣下ニ物ヲ出ストモ、ヲシク思ハズシテ出スヲイサキヨキト云也、『』能ク静ニトハ、三是思惟ノ方

也、『ㄱ』能<sup>タ</sup>平<sup>ニ</sup>ニトハ、君臣ノ間平等ニト云義也、『ㄱ』能ト、ノエトハ、味方ノ中ヲト云コト、『ㄱ』受<sup>ウケ</sup>諫<sup>イサマ</sup>ヲトハ、イケンキクコト也、『ㄱ』哥<sup>ニ</sup>曰、世中ニ教訓キカヌスエハ、タ、イカナ□事カ在明ノ月、

『ㄱ』能<sup>ウツク</sup>訟<sup>ウツク</sup>キクトハ、人ノ訴訟ナトヲキク、納<sup>イ</sup>トハ、国ニヨリ人ヲサメヨト云□、『ㄱ』言ヲトルトハ、善惡ノ言ヲキ、シルコト、一言ヲ以テ善惡ヲ知ル也、『ㄱ』国ノ俗トハ、其国ノ風俗ヲキクコト也、『ㄱ』山川ヲハカルトハ、弓矢ヲ取リカケント思フニハ、国ノ山川<sup>ケク</sup>險難<sup>ケン</sup>ヲキク也、『ㄱ』軍權ヲ制<sup>ス</sup>イ。トハ、其国ノ団取リヲキク也、『ㄱ』仁賢ノ知、聖明ノ慮トハ、智恵有ル賢人、思安<sup>アル</sup>聖人ノコト也、慮<sup>リ</sup>ハヲモンハカル、タ、工夫ノコト也、『ㄱ』負薪<sup>フシ</sup>ノ言トハ、タキギヲヲホウホトノ人ニモ行ヲハキクト云義、『ㄱ』廊廡<sup>ロウ</sup>ノ語トハ、先祖ノ廡塔<sup>ニ</sup>テタクセンヲキ、テ弓矢ヲ取ルコト、廟塔<sup>ベツ</sup>廊<sup>ロウ</sup>ハ、廡塔<sup>ベツ</sup>ノ廻廊<sup>クワ</sup>ナトノコト也、語ハカタ。イト読テ宅寅<sup>タク</sup>ノコト、『ㄱ』興衰<sup>コウ</sup>ノ事トハ、興ハサカリ、衰ハヲトロウ、サカウルベキカ、ヲトロウベキカノタクセンノ事也、大将ハ

カヤウノコトヲヨロシクキク也、『ㄱ』思<sup>シ</sup>士ヲ事<sup>カ</sup>渴<sup>カ</sup>ノコトクトハ、士卒<sup>ハ</sup>我<sup>カ</sup>湯水<sup>ユ</sup>ヲ呑<sup>ミ</sup>度<sup>キ</sup>キトハ、人モカクアラント思イヤルコト、渴<sup>カ</sup>ハ水ウエト読也、『ㄱ』諫<sup>イサマ</sup>ニ拒<sup>コバ</sup>トハ、イケンヲカサルコト、拒<sup>コバ</sup>フセクト読也、『ㄱ』英雄<sup>エイ</sup>散<sup>サン</sup>散<sup>サン</sup>ストハ、ヨキ人ウセルコト也、『ㄱ』

策<sup>ハカリ</sup>不<sup>レ</sup>從<sup>シ</sup>則<sup>ハ</sup>、謀<sup>ゾ</sup>士<sup>シ</sup>叛<sup>ム</sup>クトハ、將<sup>シ</sup>團<sup>ヲ</sup>ハ取<sup>ル</sup>意見<sup>ニ</sup>シタカウザルハ、謀<sup>ゾ</sup>コトノ臣<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>ハカエツテ謀<sup>ゾ</sup>反<sup>ス</sup>ル也、『ㄱ』善惡同スル時ハ功臣<sup>ヲ</sup>倦<sup>ム</sup>トハ、ヨキモ惡キモ同ナレハ、忠信ノ臣<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>ハ奉<sup>ス</sup>公<sup>セ</sup>ス、倦<sup>ム</sup>ハヤスム義也、『ㄱ』己<sup>ヲ</sup>ヲ專<sup>ス</sup>スル則<sup>ハ</sup>ハ下<sup>ノ</sup>販<sup>レ</sup>答<sup>ト</sup>ヲトハ、大将我身計<sup>リ</sup>本ニスレハ、ワザワイハ下<sup>ヨリ</sup>コルト云ツテ、下<sup>ノ</sup>者惡事<sup>ヲ</sup>モトムル也、『ㄱ』自<sup>ラ</sup>伐<sup>ル</sup>ルトハ、大将自分ノ動<sup>ヲ</sup>云イタテレハ、下<sup>ノ</sup>者ノ忠信<sup>ヲ</sup>スクナシ、『ㄱ』讒<sup>ザン</sup>ヲ信スル則<sup>ハ</sup>、『ㄱ』衆心ヲ离<sup>ハ</sup>トハ、將<sup>シ</sup>讒<sup>ザン</sup>言<sup>ヲ</sup>人ヲ信仰スレハ、アマタノ臣<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>主人ノ心ヲ

ザカル、『ㄱ』財<sup>ヲ</sup>貧<sup>ル</sup>則<sup>ハ</sup>、姦<sup>カ</sup>不<sup>レ</sup>禁<sup>ト</sup>ハ、貪<sup>ム</sup>欲<sup>計</sup>ニフケル主人ハカヤウノ者ヲモ禁<sup>ス</sup>断<sup>ス</sup>セス、姦<sup>カ</sup>ハカタマシイト読ミテワヤクノコト也、『ㄱ』内<sup>ニ</sup>顧<sup>ル</sup>則<sup>ハ</sup>士卒<sup>淫</sup>ストハ、内<sup>ハ</sup>簾<sup>中</sup>ノ事也、淫<sup>ハ</sup>トツクト読也、主人簾<sup>中</sup>ニ計<sup>リ</sup>心<sup>ヲ</sup>カケレハ、士卒皆淫<sup>欲</sup>ニフケル、『ㄱ』將<sup>一</sup>ヲ有<sup>ス</sup>ル則<sup>ハ</sup>、『ㄱ』衆<sup>不</sup>服<sup>ト</sup>ハ、タカワズト『○』云義也、爰<sup>ノ</sup>文段<sup>ハ</sup>アトヲカエリミル也、『ㄱ』二<sup>ヲ</sup>有<sup>ス</sup>ル則<sup>ハ</sup>、軍<sup>ニ</sup>無<sup>レ</sup>式<sup>ト</sup>ハ」ハ、二<sup>ハ</sup>語<sup>ヲ</sup>信スル義也、軍<sup>ニ</sup>無<sup>レ</sup>式<sup>ト</sup>ハ、式<sup>ハ</sup>法也、法度<sup>ノ</sup>義也、軍法<sup>ノ</sup>法度<sup>破</sup>ル、義也、三<sup>ト</sup>ハ賊<sup>ヲ</sup>貪<sup>ル</sup>コト、『ㄱ』三<sup>ヲ</sup>有<sup>ス</sup>レハ、民百姓遠<sup>國</sup>行<sup>ク</sup>、『ㄱ』四<sup>ト</sup>ハ將<sup>内</sup>ニ計<sup>リ</sup>顧<sup>レ</sup>ハ、臣<sup>下</sup>シタクナケレハ、国ノ善惡ヲモ將<sup>キ</sup>カサレハ、洞<sup>隨</sup>意<sup>ニ</sup>ナル也、『ㄱ』將<sup>ノ</sup>謀<sup>リ</sup>ト密<sup>ナ</sup>ラントハ、タ、陰<sup>密</sup>ノ義也、『ㄱ』士衆一<sup>ナ</sup>レト欲<sup>ト</sup>ハ、士ハ君、衆<sup>ハ</sup>臣<sup>下</sup>也、君臣一味<sup>ノ</sup>コト、『ㄱ』攻<sup>レ</sup>敵<sup>ヲ</sup>ハヤキコトトハ、



謀トハ、電光ノコトクニ

敵ノコトワケセメ前ニスルコソ肝要也、『』カシシトツ 姦心閉トハ、カタマシキ者世間ヲウヤマイ、心ヲトチテ居ルコト也、『』ケ 軍心ヲ結フトハ、万人ノ軍兵大将ノ心ナル義也、『』ソナヘ、マウケル 備設ル不レ及トハ、敵謀コト時刻ナレハ手ヲ失義也、此ノ二ノ者トハ、将ノ謀密ナルト、士衆一ナルト、敵ヲ攻ルニハヤキコト也、『』テタテ 謀コト不レ奪トハ、軍ニカヤウノ仕置アレハ、敵ノ行スベキヤウナシ、『』シラキ 将ノ謀コトモル、トハ、敵エキコエルコト也、『』ニ 軍ニ无レ勢トハ大将軍ニ威勢ナキコト、『』ト 外ヨリ内ヲウカガウトハ、味方ノ分領ヲ敵知ルコト也、『』ワザワイ 禍ヲ不レ制トハ、内ノ法度ナラヌト云義也、『』ハク 財ヲ營ニ入ル、トハ、主人得錢得倍計シテ、イヤシキ心計リナレハ、如何様ノ義モ奉禄計ニテ、賢聖人ハ他国エ往キ、カタマシキ 姦人計集ル也、『』ニ 此ノ三ノ者トハ、『』ハ 将ノ謀リ池ル、ハ、外ヨリ内ヲウカガウト、『』ニ 財ヲ營ニ入ルコト也、『』ハ 将ニ無キ慮トハ、将思安キナコト也、『』ハ 将勇ナシトハ、将臆病ノコト、『』ハ 吏士トハ、小サブライノコト也、『』ハ 将ミダリニ動クトハ、将カロクノ敷キコト也、大将アマリ軍ヲカロクノシクスレハ、諸軍シツマラス、『』ハ 軍不重トハ、諸軍シツカナラヌコト、『』ハ 将イカリヲウツストハ、咎有ル人ヲイカルトモ、咎ナキ人迄イカスコト悪シ、ル歟 言語ニ云、君子ハ不レ移レ、怒

トナリ、『』ハ 慮トナリトハ、ア 思案ノコト也、『』ハ 勇トナリトハ、ケナケノコト也、是ハ大将ノイカニモヲモクヲモンズルノ義也、『』ハ 動トナリ怒トナリトハ、『』ハ 動クヘキコトヲウコキ、怒ルヘキコトヲイカルコト也、『』ハ 四ノ者ヲノ明誠トハ、者 アキラカノイマシメト云コト也、『』ハ 軍ニ財ナキ則ハ士来ラストハ、アマリ将不如意ナレハ、士ヲ求ルコトカナワズ、『』ハ 恩賞ナキ大将ニハ、士卒ツカエス、不レ往トハ、手足ヲモクナルコト也、『』ハ 香餌之下ニハ懸魚アリトハ、ニ 香餌ニハカンバシキエハトリ、魚モカンバシキエバヲナグレハ、其ノ餌ニ命ヲスツル也、『』ハ 語ニ曰、以テ餌ヲ魚ヲ取ル則ハ、魚ハ可レ殺ツ、以テ禄ヲ人ヲ取ル則ハ、人ハ可レ竭ト也、『』ハ 重賞ノ下ニハ死夫アリトハ、恩ヲ重ネル主人ニハ死スルツワモノアリト云義也、故ニ『』ハ 礼ハ士ノ皈スル所トハ、礼儀正シキ所ニハ、士皈服スル也、『』ハ 賞ハ士ノ死スル所トハ、恩賞ヲ出セハ主ニ命ヲ奉ル、『』ハ 其ノ皈スル所ヲ示スト云ハ、命ヲ奉ルム者ヲハ、速ニマネクベシ、『』ハ 其死スル所ヲ示スト云ハ、命ヲ奉ルヘキ者ニヲハ、イカニモ其国ニ留メヲクハ、縦ハシメス心也、『』ハ 礼アツテ後ニクエアルトハ、初ハインギンニシテ後ハ悪シクスレハ、義理ノ侍ハ其洞ニト、マラス、『』ハ 賞有リテ後クエアル人ニハ、士ツカワレズ、タゞ主人タル人ハ、イカニ其人ノ善悪ヲ見知りテ、後海ナキヤウニ礼儀ヲモタシ、恩賞ヲモ

出スコト、『ㄨ』礼賞不<sub>レ</sub>倦<sub>ト</sub>ハ、礼儀ヲモ恩賞ヲモ、夕、ヲコタラヌヤウニスルコソヨキ主人ナリ、サヤウニアレハ、士我レサキ〜ニト命ヲスツルナリ、『ㄨ』興<sub>ヲ</sub>師<sub>ヲ</sub>ノ国トハ、縦ハ弓矢ヲコサント、異国ニハ先恩賞ナキ者ニハ恩賞ヲ出シ、恩賞スクナキ者ニハ加恩ヲ出シテコソ、弓矢モ成就ナルヘキト云フ儀、サカンニスルトハ、肝要ニスルト云儀也、『ㄨ』政<sub>ヲ</sub>取<sub>ル</sub>国トハ、縦ハ其国ヲ案堵シテ、其国ヲ能ヲサメント思ハ、民百姓ニ能ク情ヲカケル政コトハ法度ナリ、『ㄨ』寡ヲ以テ衆ニ勝トハ、クワハスクナキ儀ヲトコヤモメト読也、『ㄨ』語ニ云、天下ノ饑<sub>ヲ</sub>孤<sub>ヲ</sub>獨<sub>ヲ</sub>存<sub>シ</sub>トアリ、斯ノ文段ハ先勢ヲ以テ多勢ニ勝ハ、夕、恩賞ヲシマサレハ也、『ㄨ』弱<sub>一</sub>ヲ以テ強<sub>ニ</sub>勝<sub>ハ</sub>トハ、民ホトヨワキ者ハナシ○ケレトモ、其国ニハ民分限<sub>ヲ</sub>作<sub>レ</sub>ハ、イカナルツヨキ国ニモ勝ナリ、故ニヨキ大将ノ民ヲマニスルハ、我身ヨリ大切ニスル也、是ヲ身ヨリヤスカラスト云、『ㄨ』三軍ヲシテ『ㄨ』一心ノコトクトハ、三軍ハ七万五千人也、此士卒<sub>モ</sub>大将<sub>ト</sub>心<sub>ト</sub>ニナル也、『ㄨ』兵<sub>ヲ</sub>用<sub>ル</sub>ノ要トハ、ツワモノヲ用ベキ肝要ハト云義、『ㄨ』敵<sub>ノ</sub>情<sub>ヲ</sub>察<sub>テ</sub>トハ、能ク敵<sub>ノ</sub>心<sub>ヲ</sub>推量シテトノ儀、コ、ロト云字ニナサケト云字ヲカクハ、イカニモフカキコ、ロニナサケト云字ヲ書也、『ㄨ』倉庫<sub>ハ</sub>連綿<sub>シテ</sub>クラ也、サレトモ、五穀<sub>ノ</sub>クラヲ倉<sub>ト</sub>云イ、兵具<sub>ノ</sub>クラヲ庫<sub>ト</sub>云、『ㄨ』其<sub>ノ</sub>糧食<sub>ヲ</sub>ハカルトハ糧也、食ハヨロツノシヨクノコト、二字トモニ夕、食

也、縦国エ弓矢ヲ取ルカケハ、兵具ノタクワエ、五穀ノタクワエ、ヨロツノ兵糧ノタクワエヲ

先<sub>キ</sub>クコト肝要也、『ㄨ』強<sub>ニ</sub>弱<sub>ト</sub>ハ、ツヨキ国、カヨ○<sub>ニ</sub>キ国カト云コトヲヨクキク也、『ㄨ』天地<sub>ヲ</sub>察<sub>シ</sub>トハ、其<sub>ノ</sub>主人<sub>ノ</sub>天道<sub>ニ</sub>カナウカ、カナワヌカヲキク也、其主人ノフノヨキカ、悪シキカト云コト、『ㄨ』空<sub>ニ</sub>隙<sub>ト</sub>ハ、ムナシキヒマト読ナリ、夕、光陰<sub>ノ</sub>コト也、敵ノヒマヲヨクキ、合ハ、吉時分、悪シキ時分カヲキク也、『ㄨ』軍旅<sub>ノ</sub>難<sub>ト</sub>ハ、夕、陣<sub>ノ</sub>コト也、旅ハ夕ヒ也、陣ヲモ旅ト分別スル也、陣<sub>ニ</sub>難<sub>ナシ</sub>ト云義也、『ㄨ』糧<sub>ヲ</sub>遠<sub>ニ</sub>国<sub>ニ</sub>エヤレハ其国ツカル也、『ㄨ』虚<sub>ニ</sub>ハツカル、ト読也、『ㄨ』民<sub>ノ</sub>采<sub>色</sub>トハ、兵糧ナケレハ民アヲイ色ニナルコト、窮<sub>ハ</sub>困<sub>窮</sub>ノ言也、『ㄨ』千里<sub>ニ</sub>糧<sub>ヲ</sub>ヲクルトハ、必ス道ノ千里ト限ルコトニテハナシ、夕、遠<sub>キ</sub>道<sub>理</sub>ヲイワンタメ也、『ㄨ』飢<sub>色</sub>トハウエタルイロト云コト、『ㄨ』焦<sub>蘇</sub>ハキコリ・クサカリ也、後<sub>ハ</sub>ノチノコト、『ㄨ』燬<sub>ハ</sub>コシキト読也、『ㄨ』師<sub>一</sub>ヨ○ベアカストハ、陳<sub>付</sub>シテ、先木<sub>ヲ</sub>トリ、クサヲカルヲハ○チニシテ、先飯<sub>ヲ</sub>スルコソ肝要ナルニ、先スヘキコトヲハシリエニスレハ、夜ルマテタ、カイニアキストノ儀、縦ハ百里ニ百里三百里ト爰ニテノベルコト、必ス道ノホト定ルコトニテハナシ、条々<sub>ニ</sub>道<sub>ノ</sub>トヲキ道理<sub>ヲ</sub>述<sub>ル</sub>也、百里遠クエ兵糧ヲヤレハ、三年モツベキ也、末<sub>モ</sub>此道理ナリ、如此<sub>ノ</sub>法<sub>度</sub>ヲナシテ、其国ノ兵糧ヲ遠<sub>ニ</sub>国<sub>ニ</sub>エヤレハ、『ㄨ』

国虚、国ツカレテ民不如意スレハ、上下ノ間モムツマシキコトナシ、『』親ハ、ムツマシ、ト読也、結句、敵指懸テ城ギワニ陣ヲ取レハ、『』民ハ内ニテヌスミヨスル也、是ヲ必ス国ノツイエト云也、『』上ニ虐ヲ行フトハ、虐ハサカシト読也、主人ノ利錢利倍ノコト也、下ニ『』急刺ストハ、『』

イタミキザムト読也、民百姓俄ニ難儀ラシテ、セハくシキコト来ル也、『』語ニ曰、不レ教シテ殺ヲ虐ト云、『』重レ数ヲ刑罰無キ極トハ、主人利錢計ナレハ、年貢ナトヨリシヨトリ、定リタル、外ヲ取ルコトハ、法度キワマリナキ道理也、数ヲ重シテハ、年

くノカスヨリ、亦カサネテ取ルコト也、刑罰ハ法度ノ義也、『』民相イ残賊トハ、残ハソコナイ、賊ハヌス人也、夕、民ヲソコナウ儀也、亡国ノ所以也、『』内貧外廉ニシテトハ、貧リハ欲心ノ方、廉ハカト、読也、是ハ内ニテハ欲心一三昧ニテヨソニテ一廉アルフリヲシ、誉レモトラスシテ、誉ヲ取ルフリヲ云人、浮世ニ有リ、是ハホマレヲ偽ル義也、『』竊テ恩トスルトハ、主人ヨリ恩モナクシテ、気色ヨリ恩アルフリヨスルハ、君

ヲヌスム道理也、『』上下ヲクラマシムトハ、君臣ノマヨクラクスル義也、『』身ヲカザリトハ、キドクナキ人、奇特アルヤウヲスルハ、身体ヲカザル義也、『』顔ヲ正クシテトハ、人ニ向トキ計リ正直ノフリヨスルコト、『』式条ニ面ヲ和ケ言ヲ工ムトアリ、『』

高官ヲ得ルトハ、タカキ官途ナトヲシテ、人ニ高位ニヲモワレル義也、是ハ『』盜端ト云ハ、ヌス人ノハシト云コト也、『』群吏・朋党トハ、郡群ハムラガル、『』吏ハミヤツカイ、『』朋ト『』党ハ何レトモカラ也、悪キトモガラハ、ウキ世ニムラカツテヲ、キト云コト也、『』各親所ヲ進ムトハ、イタツラ者ハヲノレニシタシキ人計ヲス、メ、『』姦狂ヲマネキアクルトハ、カタマシク狂乱者計リヲマネキ集ルコト、『』仁賢ヲサエトリヒシクトハ、従者賢人ヲ

押シコメル儀也、『』公ソムイテ私ヲタテルトハ、主人ノ下知ヲソムキ、我カ儀計ヲ本ニスル者アリ、是ヲ私ヲタテルト云、『』位同クトハ、主人ノ位ト同前ト云人アリ、是モ身体ヲカザル道理也、相イソシルトハ、人ヲソシルコト、『』乱源ト云ハ、ミダレノミナモト、云義也、『』宗強トハ、悪キ存分計ヲ朝夕持也、『』奸ヲアツメルトハ、カダマシキ人ニ計マジワル儀也、『』无レ位シテ位ヲタツトクトハ、元来ハ无名ニテ、俄ニ高官ナトヲシテ、自分ニテ威勢アルフリ也、『』不レ震ト云コトナシトハ、我ヲ見テフルエザル者ハアルマジキト云義也、『』高藟相イ連トハ、従者ノ一類ハクズカツ○ノコトクニアイツラナルコト、『』徳ヲ種トハ、従者ノタネウセスシテツノルコト、『』恩ヲ立テ在位ノ權ヲ奪フトハ、君エサセル奉公モナクシテ奉公立テヲシテ、下地ヨリアル權

柄ノ人ノ役ナトヲウバイトリタカルコト、『ㄱ』下民ヲヲカシアナ  
 ドリトハ、百姓ニ非分ヲ云イカケルコト、『ㄱ』国内嘩喧トハ、必  
 スカヤウニアレハ、其洞ニ功アラソイアリテ、カマヒスシキコト出  
 来スル也、『ㄱ』臣蔽テ不<sub>レ</sub>言トハ、可<sub>レ</sub>尔臣下ハカクシ居テモノイ  
 ワザルコト也、『ㄱ』是<sub>ラ</sub>乱根ト云ハ、ミタレノネト云義也、『ㄱ』  
 世々ニ奸ヲナシトハ、世間ニカタマシキ者イカホトアルト云義、  
 『ㄱ』県官ヲ侵シ盗ムトハ、県ハ○カタト読テ、何トナク二人三人  
 居タル村ナトノコト、サヤウナル村里ナトニテ、主人ニモ不<sub>レ</sub>知シ  
 テ、官位ナトヲアタエルコト、『ㄱ』進退タヨリヲ求トハ、ス、ム  
 コトモ、シリソクコトモ、我力前ニアルゾト云義也、イカヤウナル  
 タヨリモ、自<sub>ラ</sub>カマ、ナルト云義也、『ㄱ』委<sub>イ</sub>『ㄱ』曲文ヲ弄シテ  
 トハ、委曲ハクワシクマカルト読、『ㄱ』弄シテハモテアソブ也、  
 スコシ計リ文書ヲモテアソフテ、主人ノ心ヲマカ<sub>ラ</sub>ス道理也、『ㄱ』  
 以其君ヲ危<sub>ウ</sub>スルトハ、其君ニスコシバカリ知リタルコトヲヲシエ  
 テ、主人ノ身体ヲアヤウニヤウニスル義也、『ㄱ』是<sub>ラ</sub>国ノ奸ト云ハ、  
 是<sub>ラ</sub>国ノカタマシキト云コト、『ㄱ』吏多<sub>ク</sub>民スクナシトハ、『ㄱ』  
 吏トハ侍也、国内ニ侍ヲク、百姓スクナキコトアシ、『ㄱ』  
 尊卑<sub>ソ</sub>ア○苦ムトハ、侍ヲ、ク、百姓スクナケレハ、出家沙門迄テ  
 公役ヲカケル義、タツトキモ、イヤシキモ皆苦ム道理也、『ㄱ』強  
 弱<sub>ク</sub>相<sub>イ</sub>トリコニシテトハ、ツヨキ人ヲモ、ヨワキ者ヲモ、皆手ノワニ

トリマワスコト、『ㄱ』禁<sub>ニ</sub>カノウコトナシトハ、禁ハイマシメ、  
 禦<sub>ハ</sub>フセク也、タ、法度ノコト也、理非モシラヌ者ノハ、法度ニシタ  
 カワヌト云義也、『ㄱ』延<sub>ヒ</sub>君子ニ及<sub>フ</sub>トハ、ノヒ<sub>ク</sub>イワテハ、悪  
 シキコトハ、君ノ身ノ上ニキタルト云コト也、『ㄱ』善<sub>ラ</sub>  
 善<sub>ト</sub>シテ不<sub>レ</sub>進トハ、ヨキ人ヲモ、ヨキトセント云義、悪<sub>ラ</sub>悪<sub>ト</sub>シテ  
 退ケストハ、悪<sub>キ</sub>者ヲモ制<sub>レ</sub>伐セスト云義、『ㄱ』賢者ハ<sub>ニ</sub>隠<sub>シ</sub>トハ、  
 賢人ハカクレイテト云義、『ㄱ』不<sub>レ</sub>肖<sub>ト</sub>ハ、位<sub>ニ</sub>在トハ、不<sub>レ</sub>肖トハ  
 徒<sub>ニ</sub>者ノコト、徒者世<sub>ニ</sub>繁昌スルコト、其行末ハワザワイ出来スルコ  
 ト、『ㄱ』枝葉強<sub>大</sub>トハ、悪<sub>シ</sub>キ者ノ枝葉ハヒロクナル儀、強<sub>大</sub>ハツ  
 ヨクハナ<sub>ク</sub>シト云義、『ㄱ』比<sub>周</sub>シテ居<sub>レ</sub>勢ニトハ、其徒者  
 ヲアマネク比<sub>レ</sub>類ナキト云コト也、『ㄱ』卑<sub>賤</sub>尊<sub>キ</sub>ヲ凌<sub>ク</sub>トハ、卑<sub>賤</sub>ハ  
 イヤシク<sub>ク</sub>ト読也、凡<sub>下</sub>ノ者、貴人高人ヲソシルコト、『ㄱ』益<sub>マ</sub>  
 ス<sub>ク</sub>大<sub>ナ</sub>リトハ、從者次第増進スルコト、上<sub>ニ</sub>廢スルコトヲ不<sub>レ</sub>惡  
 トハ、廢ハ破<sub>ル</sub>方、不<sub>レ</sub>忍ハシメサ<sub>ル</sub>ルコト、君子徒<sub>ラ</sub>者ヲ法度セ  
 スハ、必<sub>ニ</sub>其国敗<sub>ル</sub>也、『ㄱ』佞<sub>人</sub>上<sub>ニ</sub>有<sub>ル</sub>時、一軍皆<sub>テ</sub>訟<sub>ト</sub>ハ、佞  
 人ハイツワリ人也、イツワリ  
 人一人君子ノ愛スレハ、一軍ノ士卒、皆訴訟ガヲナリ、威<sub>ヲ</sub>引<sub>ク</sub>与<sub>ク</sub>  
 コト、引<sub>ハ</sub>奪也ト云字訓也、『ㄱ』動<sub>ク</sub>コト衆<sub>ニ</sub>違<sub>ト</sub>ハ、動<sub>ハ</sub>ヤ、モ  
 スレハト云義也、『ㄱ』進<sub>ム</sub>コト也、『ㄱ』退<sub>ク</sub>コトモナクトハ、  
 善<sub>ヲ</sub>モ不<sub>レ</sub>進、惡<sub>ヲ</sub>モ不<sub>レ</sub>退、『ㄱ』杳<sub>然</sub>トハ、イヤシキ故也、『ㄱ』

容ヲ取ルトハ、容ハ容顔也、心ハ欲心ニシテ、上ヲハ容顔美麗ノフリ也、『ㄱ』専ラ任ニ自己ニトハ、何コトヲモ君ノ心ニマカセザル儀也、『ㄱ』挙措代レ功ニトハ、ヲノレカ功計リヲ云イアクルコト、『ㄱ』挙措ハアゲヲクト読也、『ㄱ』盛徳ヲ誹謗スルトハ、賢才盛徳ヲハソシリソシルト云儀也、『ㄱ』誣述ニ庸虐ニトハ、シイテハイヨクノ儀、『ㄱ』庸ハツタナキ形也、『ㄱ』虐ハサガシ、ト読也、タ、ツタナキ方也、『ㄱ』行司ヲ稽留ハヲシト、ム儀、昔ヨリノマツリコトヲハヲシト、ムト云儀、『ㄱ』命令不レ通トハ、主人ノ法度ヲハ不通シテ押シカ」

クスコト也、『ㄱ』苛政ヲ造作トハ、苛政ハカラキマツリコト也、『ㄱ』古ヲ変シ常ニ易エトハ、常ハ五常ヲソムク儀也、『ㄱ』受ニ過歿ヲトハ、過ハ大ワザワイ、歿ハ小ワザワイ也、『ㄱ』姦雄相称トハ、万人勝レタルカダマシキ人ヲ相カマエテト云儀也、『ㄱ』主明ヲ障弊ストハ、アキラカノ主人ヲハサ、エカクスト云儀也、『ㄱ』毀誉並興トハ、毀ハソシル、誉ハホマレナリ、徒者ト名譽ノ者ナラヒ居ルコト也、『ㄱ』壅塞トハ、フサキフサクト読也、『ㄱ』主ノ聰トハ、主人ノ口エヨリ入ルコトヲハ言ヲユイマカエテ、君ノ耳ニイラヌヤウニスルコト也、『ㄱ』各私ナル所ヲモネツテトハ、我カ身計リ本トスルコト也、『ㄱ』主ヲ命令忠ヲ失セシムトハ、主人ヲ我カマ、ニシテ、傍輩ノ忠信ヲウシナウコト也、『ㄱ』主異言察シテ、

其萌ヲ見ルトハ、異言ヘコトハヲカエルコト、主人ハ」

人ノ心ヲ見ト思ニハ、言ヲ云イカエテ、其者咎有ルカナキカノキサシヲ見ル、『ㄱ』主儒賢ニ聘スルトハ、儒ハ物シリト読也、タ、物シリノ賢人ノコト、『ㄱ』聘ハトウト読也、賢人ニ物ヲトウト云字ニハ、此聘ノ字ヲ書也、主人賢人ニ異見ヲキケハ、勝レタルカタマシキ者ハ、其国ヲノカル、也、『ㄱ』主旧齒ニ任スルトハ、是其年タケタル人ニ異見ヲキクコト也、旧ハフルキ、齒ハハト云儀也、『ㄱ』哥ニ曰、世ハ都、月ハ更シナ、人ハ老、花吉野ノ峯ノ白雲、『ㄱ』岩穴ノ士トハ、岩ヤナトニ居賢人ノコト也、傳悦ナトノコト也、殷ノ高宗ハ傳悦ヲ招テ政リコトヲアツケテ繁昌タリ、『ㄱ』得レ実ヲトハ、タ、真実ノ儀也、『ㄱ』謀コト負薪ニ及フトハ、タキ木ヲ負ツレノ者ニモ異見ヲキクコト也、『ㄱ』人心ヲ不レ失トハ、人ノ忠ヲウシナワネハ、我ハ」

身ニ徳有ト云儀也、洋溢ノ二字ハアラワレアラワロトモ、亦ハナカニニミツルトモ誑ナリ、く、上略之分畢、

『ㄱ』夫三皇トハ、『ㄱ』伏羲、『ㄱ』神農、皇帝ノコト也、『ㄱ』言ナクシテトハ、三皇ノ代ハ号令ノ言ナキ也、『ㄱ』結繩ノ代ト云ツテ、ナワヲムスヒキ物ノ約束ヲナス也、『ㄱ』化ハヲシエノコト也、主ノヲシエ四海ニ周通スルコト也、『ㄱ』天下ニ功ヲ販スルトハ、功ダテト云コトナキ儀也、功タテトハ、意趣アラソイノコト也、『ㄱ』五帝トハ、『ㄱ』小具、『ㄱ』顓頊、『ㄱ』高辛、『ㄱ』唐堯、『ㄱ』

虞舜也、『\』天ニ体シ、『\』地ニノイレルトハ、ハヤ五帝ノ代ハ三皇ヨリ少ヲトル儀也、此時ハ天ヲ變化、地ノ四季転変ノアリサマヲ以テ、国ヲ納ル也、『\』言有リ、『\』令有リトハ、ハヤ早□令ノ言有ルナリ、『\』天下太平ト□ノ令ノ言ヲ以テ、法度ヲシテ天下ヲサマル也、『\』君臣功ヲ

譲トハ、只臣下ニ功ヲアタエ、臣下ハ君ニ功ヲ讓ル也、上略ニ好□スルト云文段也、『\』四海ニ化ヲ行トハ、臣下モ天子ノ教化、四海ニ通スル儀、教化ハ法度也、『\』百姓其ノ然ル所ヲ以テ不知トハ、百姓ハ公事ト云コトモ不知云儀、『\』臣使ニ礼賞ヲ不待トハ、臣下モ礼賞ナケレトモ、奉公スルコト也、『\』有レテ功、美ニシテ無レ害トハ、君ニ逆心スルコトモナク、タ、功計リニテ君心アイタイツク。シテ、スコシモワザワイナキコト也、美ハイツクシキコト、『\』王ハ人ヲ制スルニトハ、王者トハ是ヨリ十四代ノコト也、『\』夏『\』殷『\』周ノ三代迄テハ政コトモ不レ傾、四代目ヨリノ秦ノ始皇ヨリコソ大唐モ乱ル、也、『\』十四代ニナリテハ、法度ヲ以テ道ヲタ、ス、『\』心ヲ降スルニ志ヲ服ストハ、降スルハアワレミヲイタス道理也、王ノ志ヲ万人ニアタエル儀、志ヲ服スト云ガ一アワレ□降タス道理也、『\』雉ヲ設テ裏ニ備トハ、雉ハ法度也、法度ヲ以テ国ヲトロエサルヤウニ備ルコト也、『\』四海会同ニシテ王職ヲハイセストハ、四方ノ人ノ心一味ニシテ、王道ノカタムカヌ

ヤウニ守ルコト也、職ハ位也、『\』甲兵備アリトイエトモ、鬪戦患ナシトハ、甲兵ハカフトソツワモノト云儀、鬪戦ハタ、カイノコト、タ、弓矢ノコト也、法度ヲ能クスレハ、弓矢ヲノ上ニモウシイナシト云コト、『\』十四代ノ始ノ夏殷周ノ代マテハ、君臣ノ間ニ疑心ト云コトモナシ、\臣ハ義ヲ以テ退クトハ、賢人ノ臣下ハ義理ニ相違スレハ其国ヲシリソク、『\』亦能ク美ニシテトハ、何トスレトモ、君臣ノ間ハイツクシクシテワザワイナキト云儀也、『\』覇者ハ制ルニ士ヲ権ヲ以テシトハ、覇者ハ摂政関白ノコト也、関白ニナルトハ、権ノ人ニテナケレハ、士卒法度ニカナワスト、『\』結士トハ君臣

談合ノコト、『\』信ヲ以テトハ、談合ハマコトヲ本ニスル儀、『\』賞ヲ以テトハ、恩賞ノコト、『\』信衰ルトハ、後談合イツワリニナルコト也、土ウトンズトハ、ヲロソカニナルコト、『\』賞虧ルトハ、恩賞ヲトラル、コト、命ヲ不レ用トハ、主命ニ不レ用儀也、『\』軍勢ニ曰クトハ、此中略ハ軍勢集ト云軍書ヨリ出ツ、『\』出シテ軍師ヲ興トハ、弓矢ヲコ。コト也、『\』將ノ自ラ専ラトハ、大將ノ自分不器用ニテハナルマシキトノ儀也、『\』進退内トハ、ス、ムコトモシリソクコトモ、簾中ニキクコトアシキコト、『\』功難レ成リトハ、『\』知ヲ使トハ、知恵アル人ヲ使エトノコト、『\』勇ヲ使トハ、ケナゲ者ヲ使トノ儀也、『\』貧ヲツカエトハ、不如意ノ者ヲモ使ト云儀也、『\』愚ヲ使トハ、愚癡ノ者ヲモ使トノ儀也、

『\』其功ヲ立テンコトヲトハ、知者ハヲノレカ自分ノ知恵ノ謀コトヲ物立テ、タ〇思フ儀也、『\』勇ハ」

其志ヲ行シコトトハ、ケナゲノテタテヲ物タテタリ思フ儀也、『\』其ノ利ニゲキセウトハ、『\』ゲキセウハ、『\』ムカイワシルト読也、不如意者ハ敵城ヲ破リテモ、乱取ヲ心ニカケルハ、利欲ノ方ニムカイワシル儀也、『\』其ノ死ヲ不顧トハ、愚癡ノ者ハ死スルコトノモカエリ不レ見儀也、『\』其至情ニトハ、其コ、ロニ随テ使エト云儀也、『\』微権トハ、妙ノ謀コトト云儀也、『\』弁等トハ、弁舌アキラカノ侍也、『\』談説トハ、カタリトクト読也、敵ヲ保美スルコト、弁舌ノアキラカニ才覚過タル人ハ敵ノ奇特計リヲ云也、サヤウニアレハ、味方ノ士卒ハマドウ也、『\』仁者トハ、無欲ノ人也、無欲ノ人ヲ役人ナトニシテアレハ、ヲノレカ無欲ナル故ニ、賊ヲ無体ニスル也、『\』巫祝トハ、ミコゼイト読也、博士ノコト〇、『\』吏士トハ侍ノコト、軍法ニハウラナイ悪シキ也、味方ノ可レ負ハ」

出タラ〇味方ノ士卒内ニナル也、『\』義士ヲ使財ヲ以テセストハ、**■**理ノ侍ヲ使ニハタナク計ニテナラス、タ、祝儀タ、シクナケレハ、不レ使『\』義者ハ『\』不任者ヲタメニハ不レ在トハ、義理ノ侍ハ非道ノ君ニハ命ニ不レ出、『\』不仁者トハ、非道ノ主人也、『\』智者闇主ノタメニハ不レ謀トハ、闇ハクラキ也、理ニタククラキ主人ニハ、智慧アル侍ハ不レ使、『\』以テ徳トク。バトハ、主人ノ徳ト臣下

ノ徳ヲ述ル也、徳ナキ君トハ、情ノナキ君也、徳ナキ臣下トハ、君ヲ敬ヌ臣下也、『\』無レ威則ハ失レ権トハ、権ハハカリコト、威勢ナケレハ何タルハカリコトモナラス、『\』威勢多キ則ハ身ツマクトハ、アマリ世ニ趣テ威『\』勢アラハ、カナラス越度アルヘシト心得ル、『\』聖主ノ世ヲサムルトハ、王ハ聖人ナラハ、世ヲモ能クヲサムル也、『\』盛衰ヲ見テトハ、行末サカルヘキ」

ト、ヲトロウルコトヲ能ク見シルコト也、『\』得失ヲハカルトハ、アマルコトト、ウシナウコトヲ能クハカル儀、『\』為レ之カ制ストハ、法度閑様トタレカタニスルト云儀也、『\』諸侯トハ、譜代宿老、『\』方伯トハ、摂政閑白ノコト、『\』天子ハ王ノコト、『\』二帥ハ二軍、『\』三帥ハ三軍、『\』六帥ハ六軍、是ハ式々ノ道理也、『\』世乱ルトハ、諸侯三軍ノ大将ナラハ、方伯ハ二軍ノ大将也、タ、逆ノ方也、『\』叛逆生ストハ、謀反ヲコル儀、『\』語ニ曰、都ハ国ヨリ大イナルハ悪シ、臣ハ君ヨリ大イナルハ悪シト云儀也、『\』王沢トハ、天子ノ恩沢ノコト也、天子ノ威勢ツキレハ、血判ヲスル人モカエツテ主人ヲ誅罰スル也、『\』徳同ク。キヲイトヒトシキトハ、徳ト威勢軍ノ両輪ノコトクト云儀、閑様ナレハ国カタムクコトナキ也、『\』英雄ノ心ヲ取ルト衆ト好悪同クトハ、上略ノ初ノ一行ノ文段也、

『\』加レ之ニトハ、衆ト一味ノコト、『\』権変トハ、色々ノハカリ

コト也、『ㄨ』計策ニアラスンハ、計策ハハカリハカルト読也、『ㄨ』嫌ヲ決シ、疑ヲ定ルコトナシトハ、嫌モウタカイ、決ハアキラカ、疑モウタカイ也、此文段ハウタカウベキコトヲ、ウタカイニサタマリ、疑心アルマシキコトヲハ、ナキニ定ルコト也、タ、定ノ字分別スベキ也、『ㄨ』譎奇ニアラスンハトハ、譎奇ハイツワリアヤマリト読也、ハカリコトト云ハ、アヤツリモシイツワリヲモスル也、『ㄨ』語ニ曰、民王太公ニトウコト、敵我カ陣ヲ関ハイナントスベキト云、太公房我カ陣ニ火ヲカケヨト申ス、是ハ敵ニヲモイキルト知ラレントノ儀、タ、アヤツリノ方、『ㄨ』姦ヲ破リ冠ヲ息ルト、閑様ノイツワリアヤツリヲ以テ、コリカタマシキ者ヲモ破コト、アタスル者ヲモ息ル儀也、『ㄨ』陰謀ニアラスンハトハ、カクシタルタバカリコトニナクンバ、寄」

特ノ功モナルマシキトノ儀、『ㄨ』聖人ハ体レ天ニトハ、聖人ハ天ノ日月星ノ氣ヲ能クシルコト、『ㄨ』賢人ハ地ニノツトルトハ、賢人ハ四季転変ヲアヤリサマヲ能クシルコト、剋角万物天地ニモル、コトナキ道理也、智者ハ『ㄨ』古師トスルトハ、智者ハフルキ文書ヲ師匠ニスル儀也、『ㄨ』是ノ故ニ三略トハ、此書ヲ指テ云也、『ㄨ』衰世ノ為ニトハ、末世ノ衰微ヲカンカミテ制作スル也、上略ハ礼儀ヲ本トニスル、是ハ大将三ノ礼ノコト、奸雄ヲワカテトハ、カタマシキ者、勝ル、者差別アルコト、『ㄨ』成敗ヲアラワシトハ、成敗ハ歡善誅惡

ナリ、タ、善惡ヲ分別スルコト、中略ハ德行ヲ差ルトハ、德行トハ、徳アルテタテト云儀、差ハエラフト読也、『ㄨ』主人ハフカキ行ヲ肝要ニスル也、『ㄨ』權變ヲツマヒラトハ、様々ノ権リコトノ変化コト也、ツ」

マヒラカハクワシク智コト、下略ハ『ㄨ』道德ヲノベトハ、道德ハ五常ノコト、『ㄨ』安危ヲ察シトハ、天下ノアヤウキコトト安全ノコトヲ述ル也、『ㄨ』賢賊スルトノ咎トハ、賢人ヲソロコナウコトヲ第一ノ咎トスル儀ヲ下略ニハ述ル也、上略ヲサトル者ハ賢人ニモナリ、敵ヲ能クシタカエル也、○中略ヲサトル人ハ大将ニモナリ、士卒ヲモ手ノワニニギル也、下略ヲサトル人ハ盛衰ノ源ヲ明ラムトハ、サカルベキコト、ヨトロウヘキコトヲヨク知ル也、『ㄨ』治國ノリトハ、國ヲサムルノ法度ヲクワシク知ル也、高鳥死テ良弓ヲサマリトハ、高鳥ハカケトリ也、大唐ニハカケ鳥ヲイヨトセハ弓ヲ袋ニヲサムルナリ、縦ハカケ鳥ヲイルホトノイテモ虚空ニ鳥ナケレハ弓ハ所用ニタズ、『ㄨ』敵國滅ヒテ謀臣亡トハ、太公房ナトホトノハカリコトスル人也トモ、浮世ニ敵」

ナクンハ所用ナシ、爰ニテホロブルト云文段ハ、其身体ヲ破ルコトニテハナシ、タ、敵ナケレハ、謀リコトヲモトリヲサムル榮花ノ方也、『ㄨ』其威ヲ奪テトハ、敵ノ威勢ヲ奪テト云儀也、『ㄨ』其ノ権ヲ廢スル儀也、『ㄨ』之ヲ朝ニ封テトハ、朝ハ朝廷ト云ツテ大裏ノコト也、



『』カヤウノ名人ヲハ、禁中ヨリ三大臣ナトノ位ヲサツクルコト也、是ヲ人臣ノ位ト云也、『』其ノ功ヲ顕ストハ、累年ノ勤功ヲアラフス儀也、『』中<sup>ナカ</sup>丞<sup>セウ</sup>善<sup>ゼン</sup>キ<sup>キ</sup>国<sup>クニ</sup>トハ、大唐<sup>テウ</sup>ニ中<sup>ナカ</sup>花<sup>カ</sup>国<sup>クニ</sup>ト云国アリ、是ヲ三字<sup>サンジ</sup>中<sup>ナカ</sup>略<sup>リョク</sup>シテ中<sup>ナカ</sup>丞<sup>セウ</sup>ト云也、此国ハ弓矢<sup>キウシヤ</sup>モナク安全<sup>アンゼン</sup>ノ国也、『』其ノ家<sup>カ</sup>ヲトマス<sup>ト</sup>トハ、其国ノ人家<sup>ニヤ</sup>ノ富<sup>フ</sup>貴<sup>キ</sup>スルコト也、『』美<sup>ミ</sup>色<sup>シキ</sup>トハ、美人<sup>メイジン</sup>美<sup>ミ</sup>男<sup>ナン</sup>ナトモ沢<sup>タク</sup>山<sup>サン</sup>アル国、珍<sup>チン</sup>玩<sup>ワン</sup>■<sup>メ</sup>。ツラシキタマト読ム也、タ、タカラ物ノコト也、安全<sup>アンゼン</sup>ノ国ニハ宝<sup>ホウ</sup>ヲ、クアツマルコト、人衆<sup>ヒトタガヒ</sup>一<sup>ヒト</sup>合<sup>カ</sup>而<sup>ニ</sup>一<sup>ヒト</sup>

トハ、人<sup>ヒト</sup>ハ君<sup>キミ</sup>、衆<sup>シユウ</sup>ハ臣<sup>チン</sup>一<sup>ヒト</sup>和<sup>ワ</sup>合<sup>カ</sup>シテ、ツイニ不<sup>レ</sup>離<sup>リ</sup>コト也、『』威<sup>キ</sup>成<sup>セイ</sup>権<sup>ケン</sup>一<sup>ヒト</sup>マタエテツイニウツタラストハ、団<sup>ダン</sup>ヲモ一<sup>ヒト</sup>返<sup>ヘン</sup>ワタシタル人ニハ、二度<sup>ニ</sup>取<sup>リ</sup>リカエサヌコソ本<sup>ホン</sup>ナレ、『』師<sup>シ</sup>ヲ還<sup>ヘン</sup>シ軍<sup>ジュン</sup>ヲヤムルハ、存<sup>ホ</sup>亡<sup>ボウ</sup>ノ階<sup>クハ</sup>ナリト云ハ、縦<sup>ジュウ</sup>エ弓<sup>キウ</sup>矢<sup>ヤ</sup>ヲ能<sup>ノ</sup>クトリヲサメテモ、兵<sup>ヘイ</sup>具<sup>ク</sup>ヲブサタニスマシキト云義也、之<sup>ノ</sup>ヲ『』弱<sup>ヨク</sup>ス<sup>ニ</sup>位<sup>イ</sup>ヲ以<sup>テ</sup>テスル、主<sup>シュ</sup>人<sup>ジン</sup>位<sup>イ</sup>『』カ<sup>カ</sup>タムケハ国<sup>クニ</sup>モヨクナル也、大<sup>ダイ</sup>人<sup>ジン</sup>ノ少<sup>シウ</sup>人<sup>ジン</sup>タルハ、家<sup>カ</sup>ヲ失<sup>シ</sup>フト云義也、『』奪<sup>ダク</sup>レ<sup>ラ</sup>之<sup>ノ</sup>ヲ国<sup>クニ</sup>ヲ以<sup>テ</sup>テトハ、我<sup>ガ</sup>国<sup>クニ</sup>ヲ堅<sup>ケン</sup>固<sup>コ</sup>ニ持<sup>チ</sup>テコソハ、他<sup>タ</sup>国<sup>クニ</sup>ヲモ奪<sup>ダク</sup>フト云義也、『』覇<sup>ハ</sup>者<sup>シャ</sup>ノ謀<sup>ボウ</sup>リコトトハ、摂<sup>セツ</sup>政<sup>テイ</sup>関<sup>カン</sup>白<sup>ハク</sup>タル人<sup>ニ</sup>ハカヤウノ謀<sup>ボウ</sup>リコトヲコソナスト云義也、縦<sup>ジュウ</sup>ハ覇<sup>ハ</sup>者<sup>シャ</sup>ノ『』論<sup>ロン</sup>ヲナスハマダラトハ、摂<sup>セツ</sup>政<sup>テイ</sup>関<sup>カン</sup>白<sup>ハク</sup>トシテ功<sup>コウ</sup>アラソイアレハ、謀<sup>ボウ</sup>リコトマチノ也、マダラハマチノコト、論<sup>ロン</sup>ハアラソウ方<sup>ホウ</sup>也、『』社<sup>シャ</sup>稷<sup>シキ</sup>トハ、五<sup>ゴ</sup>穀<sup>コク</sup>ノ神<sup>カミ</sup>ヲ政<sup>テイ</sup>ルヲ社<sup>シャ</sup>稷<sup>シキ</sup>ノマツリト云フ、是<sup>レ</sup>ヲカウ□ノノ時<sup>トキ</sup>ヲ『』能<sup>ノ</sup>クシルコト也、『』

ト也、『』中<sup>ナカ</sup>略<sup>リョク</sup>勢<sup>セイ</sup>トハ社<sup>シャ</sup>稷<sup>シキ</sup>ヲマツリヨキ人<sup>ニ</sup>ヲタモツハ、中<sup>ナカ</sup>略<sup>リョク</sup>ヲ能<sup>ク</sup>分<sup>ブン</sup>別<sup>ベツ</sup>スル義也、『』世<sup>セ</sup>主<sup>シュ</sup>焉<sup>ニ</sup>ヲ秘<sup>ヒ</sup>セリトハ、世<sup>セ</sup>間<sup>カン</sup>ノ主<sup>シュ</sup>人<sup>ジン</sup>秘<sup>ヒ</sup>事<sup>ジ</sup>ニセヨトノ儀也、中<sup>ナカ</sup>略<sup>リョク</sup>畢<sup>ヒ</sup>、

・下<sup>ゲ</sup>略<sup>リョク</sup>之<sup>ノ</sup>私<sup>シ</sup>之<sup>ジ</sup>事<sup>ジ</sup>、

『』夫<sup>レ</sup>能<sup>ク</sup>天<sup>テン</sup>下<sup>ゲ</sup>ノ『』危<sup>アヤシキ</sup>ヲ扶<sup>サ</sup>クルトハ、爰<sup>ニ</sup>テハ天<sup>テン</sup>下<sup>ゲ</sup>ト云コト肝<sup>カン</sup>要<sup>ヤウ</sup>也、天<sup>テン</sup>下<sup>ゲ</sup>ト云所<sup>ヲ</sup>天<sup>テン</sup>子<sup>シ</sup>ト民<sup>ミン</sup>ニ見<sup>ミ</sup>ル也、『』天<sup>テン</sup>子<sup>シ</sup>ノ政<sup>テイ</sup>リコト正<sup>テイ</sup>シケレハ、民<sup>ミン</sup>モユタカ也、臣<sup>チン</sup>下<sup>ゲ</sup>君<sup>クニ</sup>ヲ敬<sup>ケイ</sup>ハ君<sup>クニ</sup>モ安全<sup>アンゼン</sup>也、危<sup>アヤシキ</sup>ヲ扶<sup>サ</sup>クルトハ、王<sup>ワウ</sup>ノ心<sup>シン</sup>持<sup>チ</sup>ヨケレハ、天<sup>テン</sup>下<sup>ゲ</sup>エ来<sup>ライ</sup>ル難<sup>ナン</sup>ヲモノガル、ハ、危<sup>アヤシキ</sup>ヲ扶<sup>サ</sup>クル道理<sup>ドオリ</sup>也、天<sup>テン</sup>下<sup>ゲ</sup>ノ『』憂<sup>ウ</sup>ヲノゾクトハ、天<sup>テン</sup>下<sup>ゲ</sup>ニ憂<sup>ウ</sup>ナキハ王<sup>ワウ</sup>ノ心<sup>シン</sup>持<sup>チ</sup>安<sup>アン</sup>楽<sup>ラク</sup>ナレハ也、此文<sup>コノ</sup>段<sup>ダン</sup>ハ安<sup>アン</sup>危<sup>キ</sup>ノ二<sup>ニ</sup>苦<sup>ク</sup>楽<sup>ラク</sup>ノ二<sup>ニ</sup>ヲ述<sup>シュツ</sup>ル也、亦<sup>モト</sup>末<sup>モト</sup>ニハ禍<sup>カ</sup>福<sup>フク</sup>ノ二<sup>ニ</sup>ヲ述<sup>シュツ</sup>ル也、縦<sup>ジュウ</sup>ハ人<sup>ニ</sup>アタヲナセハ、其<sup>ノ</sup>アタ我<sup>ガ</sup>身<sup>ミ</sup>ニムカウ也、亦<sup>モト</sup>人<sup>ノ</sup>身<sup>ミ</sup>ノ上<sup>ノ</sup>ノ悪<sup>アク</sup>事<sup>ジ</sup>ヲヨロコベハ、我<sup>ガ</sup>身<sup>ミ</sup>ノ悪<sup>アク</sup>事<sup>ジ</sup>トナル、『』語<sup>ゴ</sup>ニ曰<sup>イフ</sup>、天<sup>テン</sup>下<sup>ゲ</sup>ハ一人<sup>ニ</sup>ノ天<sup>テン</sup>下<sup>ゲ</sup>ニアラス、

天<sup>テン</sup>下<sup>ゲ</sup>ノ天<sup>テン</sup>下<sup>ゲ</sup>也、子<sup>シ</sup>ヲ以<sup>テ</sup>テ子<sup>シ</sup>タラヌ、道<sup>ダウ</sup>ヲ以<sup>テ</sup>テ子<sup>シ</sup>トスルト云道理<sup>ドオリ</sup>也、『』汎<sup>ミン</sup>民<sup>ミン</sup>ニ及<sup>ヨブ</sup>トハ、天<sup>テン</sup>子<sup>シ</sup>ノ恩<sup>オン</sup>沢<sup>タク</sup>ハ四<sup>シ</sup>夫<sup>フ</sup>野<sup>ノ</sup>老<sup>ラウ</sup>マテモ通<sup>ツウ</sup>セヨト云義也、『』賢<sup>ケン</sup>人<sup>ジン</sup>之<sup>ノ</sup>三<sup>サン</sup>皈<sup>クニ</sup>スルトハ、天<sup>テン</sup>子<sup>シ</sup>民<sup>ミン</sup>百<sup>ヒャク</sup>姓<sup>セイ</sup>ニ懇<sup>ケン</sup>切<sup>キツ</sup>ナレハ他<sup>タ</sup>所<sup>ノ</sup>賢<sup>ケン</sup>人<sup>ジン</sup>来<sup>ライ</sup>ル、『』汎<sup>ミン</sup>昆<sup>コン</sup>虫<sup>チュウ</sup>ニ及<sup>ヨブ</sup>トハ、『』昆<sup>コン</sup>ハ□ムシト云字<sup>ジ</sup>訓<sup>クニ</sup>ニテ、小<sup>コ</sup>虫<sup>チュウ</sup>ノコト也、『』虫<sup>チュウ</sup>ハ陰<sup>イン</sup>氣<sup>キ</sup>ニハカクレ、陽<sup>ヤウ</sup>氣<sup>キ</sup>ニハ出<sup>デ</sup>ル也、王<sup>ワウ</sup>ノ心<sup>シン</sup>持<sup>チ</sup>正<sup>テイ</sup>シキハ陽<sup>ヤウ</sup>氣<sup>キ</sup>ノ心<sup>シン</sup>也、天<sup>テン</sup>子<sup>シ</sup>ノ政<sup>テイ</sup>コト正<sup>テイ</sup>クシ、聖<sup>セイ</sup>人<sup>ジン</sup>来<sup>ライ</sup>ルハ、陽<sup>ヤウ</sup>氣<sup>キ</sup>ニ小<sup>コ</sup>虫<sup>チュウ</sup>ノ出<sup>デ</sup>ルト同<sup>ドウ</sup>也、王<sup>ワウ</sup>

ノ心持アシクシテ、聖人他国<sup>エ</sup>行ハ、陽氣ニ虫シ死スルニ同也、『ㄱ』賢人ノ皈スル所、其国強シトハ、『ㄱ』賢人ハ徳ヲコノム者ナレハ、其国ニ利潤<sup>ジシ</sup>ノコト出来シテ、其国富貴スルコト、『ㄱ』聖人ノ皈スル所、六合同シトハ、聖人ハ道ヲコノム者ナレハ、聖人ノ居スル所ハ、『ㄱ』東『ㄱ』南『ㄱ』西『ㄱ』北ユタカニテ、天地ノ恵モアル心也、四方ト天地トヲ合セテ六合

ナリ、依テ此文段ニハ『ㄱ』賢ヲ求ルニ徳ヲ以テシ、『ㄱ』聖ヲイタスニ道ヲ以テスルト述ル也、前ノ文段ノ甬尺ノ心也、『ㄱ』賢去ル則ハ国ニ微ヒリトハ、賢人去レハ衰<sup>ワトロイミタル</sup>微スル也、『ㄱ』聖去ル則ハ国ソムクトハ、我国我カ国ニナラヌト云儀也、微ナル者ハアヤウキノハシトハ、『ㄱ』微ナルトハ、賢人ナルコト也、閑様アレハ国ニ難来ルベキハシナリ、『ㄱ』乖<sup>ソムク</sup>者ハ亡ルノシルシトハ、聖人国ヲ去ラハ、我国ノ士卒他国エ往ク儀也、『ㄱ』人ヲ降スルニ体<sup>タイ</sup>ヲ以テトハ、体ハインギンノ方也、『ㄱ』賢人ハインギンヲ肝要スル也、『ㄱ』人ヲ降スルニ心ヲ以テトハ、心ハ正直ノ方也、『ㄱ』体降スルトハ、賢ノコト、是ハ謀コトモ、始ヲ能ク計リテ、末ヲ能クモシラス、『ㄱ』心降スルトハ、聖人ノコト、是ハ末ヲヨリ分別スル也、『ㄱ』樂<sup>ガク</sup>ヲ以テトハ、樂ハ妓樂<sup>キガク</sup>ノ方ニテハアラス、タ、タノシミノ方也、金石絲竹ナトノヤウノ樂ハアラズ、金ハカネ、一石ハライ、絲ハコトナトノタクイ、竹ハフエ尺八ナトノコト、タ、樂<sup>ガク</sup>

ノ道具ヲ述ル也、人間ハ心ニ依テイロクノタノシミアリ、『ㄱ』縦<sup>ビ</sup>家ヲタノシムトハ、造作ナトヲコノム人ハ家ヲタノシム方、『ㄱ』族<sup>ウヂ</sup>ヲタノシムトハ、イシヤウナトヲヨクスル人也、『ㄱ』業<sup>ウヂ</sup>ヲタノシムトハ、業ハシワサ也、人ハ弓箭ヲタノシム人ハ、弓箭ノ道具ヲタノシム、亦後生ヲネガウ人ハ、念珠ナトヲタノシム也、信心ヲタノシム人ハ、神ヲイノリ柵ヲウエル、カヤウノタノシミナリ、業ト云ハ色々ノコトニ取ル也、『ㄱ』都邑<sup>トイフ</sup>ヲタノシムトハ、ミヤコサト、読ミテ家敷<sup>キ</sup>ナトヲ森林ヲツクリヨクト、ノエルコト、『ㄱ』政令ヲタノシムトハ、文書ヲ読ミ号令ノ書ヲタシナム也、隨徳ヲタノシムトハ、五常ヲタ、シクスル儀也、『ㄱ』人ニ君タルトハ、臣下ニ君トヨクヲモワレンヲモトヲモワハ、ソレクニ人ノコノムヤウニ

人ヲ使ウコト也、『ㄱ』之ヲ節トスルトハ、此ノ時ト云字ハセツノ字ヲカク也、時ノ花<sup>ホシクワ</sup>盆花ニモレト云儀、其トキクニ随ヘテト云儀也、『ㄱ』其和ヲ不レ失トハ、其君臣和合ヲウシナワヌ儀也、『ㄱ』有徳ノ君トハ、我カ身ヲ本ニセス、『ㄱ』無徳ノ君ト我身ヲ本ニスル也、人ヲ樂ム者ハ久ナリト云儀、『ㄱ』近キヲステ、遠<sup>トホ</sup>ハカカル者ハ勞テ功ナシトハ、チカキ人ヲ等閑シテ他国ヲタノム人ハ、辛勞計ニテ功有ルコトスクナシト云儀、『ㄱ』遠<sup>トホ</sup>ヲステ、<sup>近</sup>キヲ計ル者ハ佚<sup>イツ</sup>ニシテ終リ有リトハ、佚ハ安也ト云字訓アリ、終ハ始終サカンノ儀、『ㄱ』佚<sup>イツ</sup>政ニハ忠信多シトハ、安全ヲマツリコトニハ、タ、シキ臣下アリト云儀

也、『ㄱ』<sup>ロウギ</sup>勞政ニハ怨民多シトハ、辛勞スル政コトニハ、ウラミノ民アリト云儀、是ハ近ラステ、遠クハカル道理也、縦ハ他国ヲタノム侍ハ、其国ノ民辛勞ヲ、クシテ君ヲ

ウラムル儀ヲ、キ也、『ㄱ』<sup>クワ</sup>広地ヲツトムル者ハ、荒トハ、城郭ヲモ分ニ過テヒロクカマエル人ハ、ツイニハ其城ヲアラス也、『ㄱ』<sup>ア</sup>広徳ヲツトムルトハ、アマリ徳ヲモ多コノム人ハ、身イタツラニスル也、

『ㄱ』シメリトハイタツラト誦也、<sup>中略</sup>徳ヲ、キ者ハ身ツマツクトアリ、『ㄱ』<sup>イウ</sup>有ヲ有トスル者ハ、<sup>ヤスシ</sup>安トハ、財ヲモ我分類ヲ分別シテタモツ者ハヨリ保也人ノ『ㄱ』<sup>イウ</sup>有貪ルトハ、人ノ『ㄱ』<sup>タモツ</sup>有ヘキ分領マ

テ、我カ貪ルハ身ヲソコナウ、式条<sup>ニ</sup>所領ノ内ノ名主職ヲ横妨スルトアリ、『ㄱ』<sup>バツ</sup>残滅ノ政リコトハ、身ヲソコナイホロホスヤウノ政コトハ、子孫迄ウレイアリ、『ㄱ』<sup>クワセ</sup>過制ヲ造作スル則ハナルトイエトモ

カナラスヤブルトハ、法度ニ過タルフルマイラスレハ、一旦ハナレトモ、ツイニハヤブルナリ、『ㄱ』<sup>フ</sup>己ヲステ、人ヲ教ルトハ、自分ハ分別ナクシテ、人ニ異見ヲ云コトハ逆ノ道理也、

己ヲ『ㄱ』<sup>ニ</sup>正クシテ人ヲ教ルトハ、自分正直ニテ人ニ異見ヲ云コソ順ナル義也、『ㄱ』<sup>ハ</sup>逆ナル者ハ乱ラマネキトハ、自分ノ分別ナクシテアル人ハ、何ト人ニハ異見ヲ云テモ、我身ノ乱ル、コトヲハ不レ知、順ナル者ハ自分ヲ能ク分別シテ、人ニモ教訓ヲスレハ、人ノ身体ヲモタス

ケ、我身モ安全ニナル、国ヲ治ル肝要也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>道『ㄱ』<sup>ニ</sup>徳『ㄱ』<sup>ニ</sup>仁

『ㄱ』<sup>ニ</sup>義『ㄱ』<sup>ニ</sup>礼ヲ五ハ一体也トハ、五常ト云モ、心一ニキワマル儀也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>道ハフムヘキ所フミ、フムマシキ所ヲフマヌヤウニ守ルコト、『ㄱ』<sup>ニ</sup>徳トハ、君ハ臣下ヲ思、臣下ハ君ヲ敬儀也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>仁者人親<sup>シ</sup>所トハ、神妙ノコト、『ㄱ』<sup>ニ</sup>義ハ宜<sup>キ</sup>所トハ、義リト云ハ、賢人ニ

君ニ使エス、貞女両夫ニマミエスノコト也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>礼ハ人間<sup>ニ</sup>ヲナセ、神ニハ三礼ヲナセト云コト也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>体ス所トハ、前ノ文段ニアルコトク、インナヲ方一モナクンハ、アルヘカラストハ、此ノ五ツ一モカケ

タラハアシ、ト云儀也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>夙<sup>ト</sup>ヲキ、夜<sup>ト</sup>ニイネルハ、『ㄱ』<sup>ニ</sup>礼ト制トハ、『ㄱ』<sup>ニ</sup>夜子ノ時、『ㄱ』<sup>ニ</sup>夙ハ寅ノ時也、将ハ子ニイネテ寅ニヲキルト云、『ㄱ』<sup>ニ</sup>礼ノ制トハ、大将ノ礼ノ法度也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>賊ヲ

討<sup>ツ</sup>、アタヲ報スルハ義ノ決也トハ、イタツラ者ヲハ、コロシアタセヌ者ヲハコロサヌハ、アタガムクツテコロサル、ト云儀、『ㄱ』<sup>ニ</sup>側隱ノ心ハ仁ノハシメトハ、<sup>側</sup>隱ハカクシカクル、ト云儀、夕、穩便ノ方也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>己ヲ得<sup>ル</sup>テ人ヲ得<sup>ル</sup>ルハ徳ノ道ナリトハ、人モ我モ徳有ル

ヤウニト云儀、均平ノ二字ハヒトシクト誦ム也、人モ我モ心平等ニト云儀也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>其ノ道ノ化ナル所ヲ不レ失トハ、其道ヲヲシエルコトヲ、ウシナワヌヤウニト云儀也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>君ヨリ出テ臣ニ下ルト

ハ、君ノ義ヲウケテ、臣下ニ物ヲ云イ付ルヲ主命ト云也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>竹帛<sup>〔外〕</sup>ハ、君ノ義ヲウケテ、臣下ニ物ヲ云イ付ルヲ主命ト云也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>竹帛

ハ、君ノ義ヲウケテ、臣下ニ物ヲ云イ付ルヲ主命ト云也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>竹帛<sup>〔外〕</sup>ハ、君ノ義ヲウケテ、臣下ニ物ヲ云イ付ルヲ主命ト云也、『ㄱ』<sup>ニ</sup>令

ラスカヌ以前ハ、竹ノ内ニ紙ニ似タル物有、是ニ法度ノ

コトヲ書ク也、帛ハキヌフダトヨム也、『』ウケテ行<sup>ヲコナフ</sup>ヲ政ト云ト

ハ、政リコトハ君ノ義ヲウケテスルコソ本ナリ、『』命失スル則ハ令不<sup>レ</sup>行トハ、主命ヲ用サレハ、法度モナラヌト云儀也、『』令不<sup>レ</sup>行<sup>行</sup>政リコト不正<sup>レ</sup>トハ、法度ナケレハ、其国不正直ニナルコト、不正直

ナレハ、道モ不納也、強盗ナト有ル心ナリ、『』道不通則ハ邪臣勝ト

ハ、道不自由ナレハ、ヨコサマノ臣下ヲ、キト云儀、其末ハ主人ノ威

勢ヤフレル也、『』千里ニ迎賢トハ、盗人ヲ遠クスルコト、『』

不肖ノイタス時、○路<sup>其</sup>チノトヲシトハ、賢人ハ世ニスクナキ物ナレハ、

遠方ニスル不肖ハ世ニヲヲキ物ナレハ、チカキ道理也、『』是<sup>レ</sup>以テ

明主<sup>マイシユ</sup>近<sup>チカシク</sup>捨テ遠キヲトルトハ、明ナル主人ハ、不肖ヲステ、賢人ヲ

取ル也、『』能功ヲ<sup>マツケウ</sup>全シ人ヲタツトシテ下ノカラタストハ、主人

ヲ民タツトシテ、カラ君ニヲシマ

サル也、『』一善トハ、一人ノヨキ人ヲスツレハ、アマタノヨキ人ト

トヲザカル也、『』一悪ヲ賞スルトハ、一人ノ悪シキ人ヲ賞翫スレ

ハ、イタツラモヲ、ク出来スル也、『』善ハ其ノサユワイヲ得ルト

ハ、ヨキ人ハ自然トシテ徳用アリ、『』悪者ハ其ノ誅ヲ受クルトハ、

誅ハクロス、イタツラ者ハ我レト我カ身ヲクロスコト有リ、此文段ハ

ヨキ人ヲモサユワイヲウケサセヨ、『』悪シキ者ヲハ誅罰スレハ、

国々安全ニシテ、アマタノヨキ人来タル儀也、『』疏ニ疑心アレハ

其国サダカナラス、『』衆惑トハ、諸人万人疎縁ニナルコト也、

疑定リ、『』惑カエツテ国可<sup>レ</sup>安トハ、疑心ハ々々ニサダマリ、惑コ

トハ還テマトワネハ、国家安全ナリ、『』一令逆則ハ百令失ストハ、

一本ノ札不<sup>レ</sup>用イ、百本ノ制札モ物タ、ス、『』一悪施ス則ハ百悪

結<sup>ツ</sup>トハ、施ハ悪シキコトヲヒロムルコト、善ヲハ順民ニ

施ストハ、ヨキコトヲハヲシエニシタカウ民ニアタエヨト云儀、悪ヲ

ハ凶民加ヨトハ、凶民ハヲシエニ不<sup>レ</sup>順民也、是ヲハ罰セヨト云儀

也、怨<sup>ウラミ</sup>ナシトハ、其国ニ『』怨敵ナシト云コト也、『』怨ヲシ

テ怨ヲサムルトハ、縦ハ主人ニ逆心ヲシテ国ヲハウワレテ、亦其国

エアタヲナスコトハ、天道ニサカウ義也、『』讐ヲシテ讐ヲサム

ルトハ、縦ハアタヲナス人ニ、亦タアタヲナセハ、火エアブラヲカケ

ルコトク也、『』依テワザワイスクワレストアリ、『』民ヲ治<sup>ラサム</sup>

ルニ平ヲシテ平ヲイカストハ、君ト民ノ間、タカイニ平等ニアリテ清ヨ

ケレハ、民其ノ国ノ所ヲエルトハ、在所安全ノ方也、『』安寧トハ、

『』連綿シテヤスキナリ、『』上ヲ犯ス者ハタツトクトハ、主人ノ

物ヲ押領スル者分限アリテノコト、『』鄙<sup>ヒ</sup>ヲ貪ル者ノ富メルトハ、

民百姓ニ非分ヲ云イテ、分限アル人アラハ、其君聖王ニ

ナリトモ、国ヲサマラスト云義也、次ノ文段ハ本経ノ分也、『』

清白ノ士ヲ爵、『』禄ハタカラ、『』清白ノ士トハ、周ノ白夷ナ

トノコト、『』節義ノ士ヲハ威刑ヲ以テトハ、節義士トハ伊尹ナト

太公ナトノヤウノ人、清白モ節義モ同前也、是ハ威勢ト刑罰計リニテハ不レ仕、『\』明君<sup>メイケン</sup>『\』賢ヲ求<sup>モトムル</sup>ハ、其ノ所以ヲ觀ルトハ、『\』清白ノ士カ節義ノ士カ<sup>見</sup>シルコト也、『\』清白ノ士ハ礼儀ヲ本トスル、節義ノ士ハ道ヲ本トスル也、『\』明君ノ賢人ヲ求ルハ、ヨリカヤウノ道理ヲ分別シテ、其人ニ恐怖ナキヤウニ召仕也、『\』後ニ士イヌルトハ、君子ノ分別ノ上ニこそ賢人モ来リ、聖人モ来ル也、\聖人ノ君子トハ、君子ハ心ヲ聖人ニ持コト、『\』盛衰ノ源トトハ、サカラント、ヲトロエントノ行末ノコト、『\』成敗ノハシトハ、ハシハ法度ノ<sup>(コトカ)</sup>、『\』勸善誅惡ノ儀也、『\』治乱<sup>チラン</sup>

機トハ、アヤツリトモ、クル、トモ誦也、審<sup>ツツヒラカ</sup>ハコマカノコト、『\』去就節<sup>キヨ</sup>トハ、去ハサル、就<sup>シユ</sup>トハツクナリ、我カ民サルヘキカ、ヲモイ付<sup>サリ</sup>ヘキカヲシルコト、『\』窮ストイエトモ、何ト不如意シテモト云儀、亡国ノ位ニヨラストハ、『\』亡国ハ随意ナル国也、『\』貧トイエトモトハ、是モ不如意ノコト也、\乱邦トハ、ミタレ国ト云コト、『\』乱邦ハヤヤコロシ、子ヲコロス国也、賢人ハ亡国ト乱邦ニハ『\』不<sup>レ</sup>居、名ヲカクシ道ヲイタクトハ、賢人ハ悪王ノ代ニハ名ヲカクシテ深山ニ引籠リ、道ヲモヲコナワス居テ、聖王ノ代ニハ出テ奉公スル也、『\』時至テトハ、明王ノ時ニハ出ルコト、人臣ハ三大臣ナトノ位ノコト也、『\』徳己合トハ、賢人ヲノレカ心ニ何事モカナエハ、殊ニ絶タル謀ヲスルコト、『\』其道高シテ名ヲ後世ニア

グルトハ、君子安全ノコト也、『\』聖王ノツワ者ヲ用ルハ、我身計ヲタノシムニア<sup>一</sup>ラス、『\』暴<sup>バウ</sup>誅<sup>チウ</sup>シトハ、暴<sup>ハ</sup>イタツラ也、朗詠ニ暴臣衰テ唐狼<sup>唐歌</sup>ナシトアリ、『\』暴臣ハ秦ノ始皇ノコト也、『\』乱<sup>イタツラ</sup>レヲ討ツトハ、ミタル、国ヲウテト云儀也、義ヲ以テ不義ナル国ヲウツハ、縦ハイルリノ火エ、大海ヲサクツツケルカコトシ、『\』燧火ハイルリノ火ノコト、『\』不測<sup>シキ</sup>トハ、測ノコト也、義ヲ以テ不義ノ国ヲウツハ、測ノハタニ立タル人ヲ、ウシロヨリヲシタヲスニ似タリ、『\』優遊トハ、タチト、マルト誦、シツカナル形也、タトハハ水ノナガレザル体也、『\』恬淡<sup>チンタン</sup>ハシツカト誦也、『\』不<sup>レ</sup>進トハ、弓矢ヲ不<sup>レ</sup>進コト也、『\』人ノ物ヲヤブランコトヲ重ニスルトハ、将臣下ニ物ヲヲシムコト也、『\』夫<sup>レ</sup>兵者不<sup>レ</sup>祥ノ器ナリ、ソノヤウノ将ハ、不<sup>レ</sup>祥ノ器ト云儀也、不<sup>レ</sup>祥トハ、ツマヒラカナラストヨミテ、アシキコト也、天道ハ、惡<sup>レ</sup>之ヲトハ、不<sup>レ</sup>祥待ハ天道ノ口証ニカナワザル儀也、『\』人ノ道ニアル、

魚<sup>イフ</sup>水ニアルニタトエタリ、魚ハ水ヨリ生レテ、又死スルハ水ヲウシナツテ死スル也、侍ハ義理ノ家ニ生シテ、身命ヲウシナウコトハ、義理ニタカツテウシナウ也、『\』君子ハ常ニヲソレテ道ヲ不<sup>レ</sup>失トハ、君子タル人ハ、世間ヲヨクツ、シミテ、道ニタガワヌヤウニ心ヲモツナリ、『\』豪傑職ヲ秉<sup>ト</sup>ルトハ、豪ハイタツラ、樂ハスクル、也、

スクレタルイタツラモノ国ツカサヲ持ヲハ、国ノ威勢モツキル也、  
 『ㄨ』殺生『ㄨ』豪傑ニアルトハ、コロスコトモ、イケルコトモ、  
 アシキ者ノマカセナレハ、主人ノ威勢ツキル也、『ㄨ』豪傑首ヲタ  
 ル、トハ、イタツラ者ハカウベヲウナタレテ物ヲイワヌハ、長久ナ  
 リ、『ㄨ』殺生君ニトハ、コロスコトモ、イケルコトモ、君子ノマ  
 カセナルコソ肝要也、但シ賢君ハデナクンハ不レ可ル、是ハ賢君ノコ  
 ト也、『ㄨ』四民虚ヲ用ルトハ、虚ハツカル、コト、民虚」  
 レハ、国ニタクワエナキト云儀、タクワエハ民ヨリ出ル也、四民トハ  
 『ㄨ』侍『ㄨ』百姓『ㄨ』商人『ㄨ』番匠也、是ヲ天下ノ四ノ宝ト云  
 也、『ㄨ』足ハ不足ナキ方、賢臣ヲ主人愛スレハ、ヨコサマノ臣下ハ  
 自ラトヲサガル、ヨコサマノ臣下ヲ君用レハ、可レル人ハ自ラトヲサカ  
 ル、『ㄨ』内外宜ヲ失ルトハ、内ニモ外ニモヨキ人ヲウシナエハ、  
 ワザワイミタレ世ニ専ラ也、『ㄨ』大臣衆ヲ疑トハ、主人士卒ニ疑心ア  
 レハ、ワキヨリカタマシキ人アツマル、『ㄨ』臣君ノタツトキニアタ  
 ルトハ、臣下君ノ位ト同前ナラハ、君臣ノ間ハヤミノ夜ノ心、『ㄨ』君臣  
 ノトコロニアタルトハ、君臣下ノ振舞ヲスレハ、次第ヲ失方也、『ㄨ』  
 序ハ次第也、『ㄨ』賢ヲヤブル者ハワザワイ三世ニ及フトハ、賢人ヲア  
 シクスレハ、ワザワイ過現未ニ及フト云儀、『ㄨ』賢ヲカクストハ、  
 賢人ヲ」  
 賢人トトヒキタテスシテ、結句賢人ノ物云コトヲハアシクトリナス

人ハ、自分ニカナラス害ヲウクル也、『ㄨ』君子ハ賢ヲ進ムコトハ、矢  
 ノコトクシテヨシ、美名アラワル、トハ、主人ノ名イツクシクアラワ  
 ル、コト、『ㄨ』一ヲ利シ百ヲ害スルトハ、一人ノ悪シキ人ヲ利ニシテ、  
 百人恐怖ヲ付ルハ民国ニ居ズ、『ㄨ』一ヲ去テ百ヲ利スルトハ、一人ノ  
 悪シキヲ捨テ、百人ニ利ヲ付ヨトノ儀也、余ハ本経ニテスム也、  
 『ㄨ』害三世ニ及フトノ古事、イダイケ夫人ト云人子ヲモタス、博士ニ  
 トヲ問フ、博士申スヤウ、道芦仙人ト云人子トナラント申ス、夫人此  
 仙人ヲコロス、ヤカテクワイ任アリ、亦博士申スヤウハ、此太子悪  
 人ナラント申、此時、夫人タスケテ、諸詮ナシトテ釵キノ上ニ彦ミカ  
 ケル足ノキビ」  
 スヲスコシキリテ、シスルコトモナシ、成人シテ我カ足ノキビスヲ  
 見テ、何キズト申セハ、ソ、ト申ヤウ、夫人ノワサナリト申、太子サ  
 テハ我カ母ハカタキ也トテ、夫人ヲコロス、過去ノ仙人、現在ノ太子、  
 未来ノ夫人、是三世也、『ㄨ』一ヲ去ルト云古事、周ノ成王ノ時、周公  
 且摂政ヲ持ツ、我カ舎弟、管叔・蔡叔トテ二人有リ、是イタツラ  
 者也トテ、是ヲ周公且殺ス也、

『…』黄石公。上中下私畢、

(朱方印)

慶長第十玖載<sup>甲寅</sup> 弥生下旬、書之、曉胤廿八載、哀哉、々々、  
 爰癡翰不憚当用之間、類頭曠調乱而已、

六韜序

孫子・呉子・司馬法尉・繚子・三略・六韜、大宋門対兵家之書、不レ知ニ其幾ト云コトヲ也、漢ノ初ニ有リ一百八十二家、刪ニ取テ要ヲ用ル者ノ三十五家、其ノ后任宏論次シテ、分ニテ其書ヲ、為ニス四書ト、唐ニ有ニ三十三家、蔵ニ其書ヲ於ニ四庫ニ者ノ凡ソ六十四部失ニシテ姓名ヲ而、不レ著<sup>アラフシルサ</sup>録一者、不レ与<sup>コレヲ</sup>焉、可レ謂、繁ニシテ且ツ雜ナリ矣、地上ノ一編ハ足レリ為ニ王者ノ師ト、奚<sup>イ</sup>以テ多コトヲ為哉ナ、

朝廷武挙之料、惟用ニテ七書ヲ、以テ取<sup>レ</sup>士ヲ亦タ此ノ意耶、施公子美為ニル儒者ト而、流ニ談ニ兵家ノ事ヲ、年ハ少クシテ而舛<sup>シヤク</sup>右ノ序ニ、不ニシテ数載ニ而、取ニ高弟ニ、為ニ孫呉ノ之学ヲ者ハ、多ク宗シ師ス之ヲ、令得ニ其ノ平昔所<sup>セキ</sup>著ハス七書ノ講義ヲ於学舎ノ間ニ、觀ルニ其議論ヲ、出<sup>レ</sup>自ニ胸臆、又別ニ史伝ヲ為ニ之參証ヲ、古人成敗之迹ト奇正ノ之用、皆得<sup>テ</sup>以テ鑑ミ觀ルニ焉、雖<sup>レ</sup>曰<sup>ト</sup>兵ハ不<sup>レ</sup>可<sup>ニ</sup>易ク言フ、若シハ施カ之於<sup>レ</sup>ケルカ用ルニ、亦豈<sup>レ</sup>一<sup>ニ</sup>至、不<sup>レ</sup>スニ知<sup>レ</sup>合<sup>レ</sup>ルコト変<sup>ラ</sup>也、於<sup>レ</sup>是ニ、鏗<sup>ユ</sup>リテ木ニ、以<sup>テ</sup>広ム其伝ニ、同郡ノ江伯虎序、

(朱方印)

注

(1) 拙稿「戦国期における兵法書の伝授と密教僧・修験者」(『生活と文化の歴史学9 学芸と文芸』、竹林舎、二〇一六年)、「中世後期南九州の兵法書の性格とその受容形態」(『愛知学院大学文学部紀要』四

八、二〇一九年)、「戦国期島津氏の兵法書『刑罰治國慮理撫民武用記』—翻刻と紹介—」(『愛知学院大学人間文化研究所紀要 人間文化』三四、二〇一九年)。

(2) 阿部隆一「三略源流考 附三略校勘記・擬定黄石公記佚文集」(『斯道文庫論集』八、一九六九年)

(3) 『防衛大学校貴重書目録』(防衛大学校、一九九四年)一〇頁。なお、表紙裏には青インクの印記の蔵書印「防衛大学校図書館33867 昭和33・3」があり、裏表紙裏には朱印の蔵書印「有馬氏珍口(蔵カ)がある。また、帙は藍染めの布地で装丁し、貼題簽に「黄石公三略私抄 慶長十九年古写本」とある。そして、昭和十一年十二月五日、「有馬成甫様」宛て「反町茂雄」の受領書(はがき)があり、反町弘文荘を介して購入されたものだった。『弘文荘待買古書目』第一〇号には本書の写真と解題があり、「書は癖多き字にて一見僧筆なる事を推測し得」とあつて僧の筆と推測されている(弘文荘、一九三七年)。

(4) 『堯胤』には、天台座主堯胤が享禄三年没(『系図纂要』第一・五二九頁)。「宥信」については真言僧では宥快の弟子の宥信、讃岐善通寺守範弟子の宥信(『野沢血脈集』四〇一・四〇四頁、『真言宗全書』第三九卷)があるが、前者は応永二三年没で時期があわれない。

(5) 岡田脩『六韜・三略』(明徳出版社、一九七九年)

(6) 仏教を背景とする解釈の例をみると、(9)の注釈に「柔は水と心得ろ」と言つて「水ハ方円ノ器ニ随フ道理ニアリテ何トモノノマ、ニナレトモ、供水ニナリテハ嶺谷ヲモ押クヅス義也」、また公家・武家を「縦ハ天竺ニ刹利 波羅門 毘沙 首陀トテ四人ノ太子アリ、刹利ハ公家トナル、是甘氏也、婆ラ門ハ武家トナリ、是八十氏也」と天

竺での婆羅門以下の用語で注釈している。

(7) 『三略捷抄』京都大学蔵、京都大学国語国文学資料叢書二十四(鈴木博・解説、臨川書店、一九八一年)

(8) 「心ヲトチテ居」(175の注釈部分)、また「咎ナキ人迄イカス」(186の注釈部分)と校訂の注記がある部分も同様である。

(9) 『三略』の底本、また注釈書の本文との関係は今後の検討としたい。

(10) 平岡武雄『全釈漢文大系 第一巻 論語』(集英社、一九八〇年)

(11) 前注(5)岡田脩『六韜・三略』二三頁。以下、同書からの引用は「六韜・頁」と記す。

(12) その内容は、①(3)の注釈に「語ニ曰、『』聖人ハ能ク物ト押移ルトアリ、聖人ハ転返ヲ能ク知ル義也、『』語曰、劔去テキツミ 舄キツミト逃テクイゼヲ守トテ、夕、弓矢ハ返ナル方アシキ也」、②

(37)の注釈に「語ニ曰、理コトヲコトヲ理ネハ、返テ乱ヲ招クトアリ、此レニハユルスト云也、タツネヨト云也ニアリ」、③(113)の注釈に「語ニ曰、兵ヲ提ヒツサケ將ヲ統ルハ帝王ノ義符アリ、宗ヲ領シ法ヲ帶モノニスルハ、祖師ノ心即ニ有リ」、④(220)の注釈に「語ニ心不レ教シテ殺ヲ虐ト云」、⑤(310)の注釈の「語ニ曰、民王太公ニトウコト敵我力陣ヲ闘ハイナントスベキト云、太公房我力陣ニ火ヲカケヨト申ス」の六件である。

(13) 佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第一巻(岩波書店、一九七八年)

(14) 川口久雄・志田延義校注『和漢朗詠集 梁塵秘抄』(日本古典文学大系73、岩波書店、一九六五年)一八六頁。

(15) 小柳司気太校訂『管子』(漢文大系第二二巻、富山房、一九一六年)

(16) 曹景恵は、『徒然草』の本文を検討し『老子』の注釈書『老子河上公注』に依っていることを確認し、『論語義疏』などが読まれていたことを指摘している(『徒然草』における『老子河上公注』の受容)(『日本中世文学における儒釈道典籍の受容』『沙石集』と『徒然草』、日本学術叢書4、台湾大学出版中心、二〇一二年)。

(17) 韋提希夫人・太子・仙人の単語から『仏説観無量寿経』で説かれる内容と関わるようだが(『仏説観無量寿経』『国訳一切経 宝積部 七』大東出版社、一九三二年、『金子大栄選集第十九巻 観無量寿経講話』在家仏教協会、一九七三年)、直接の引用関係にはない。今後の検討としたい。

(18) 『公卿補任』第三篇(国史大系、吉川弘文館、一九八二年)

〔付記〕 本稿は、日本学術振興会科学研究費「中世日本における兵法書の伝授と展開——「国家」理念の形成に関わる聖教の発掘と調査——(基盤研究(C)19K00965、二〇一九〜二〇二〇年度)の成果の一部である。

所蔵者の防衛大学校総合情報図書館からは閲覧・翻刻の許可をいただいた。感謝申し上げます。